

## 宮城大学の現状について

- I 大学の沿革と学生数等について . . . . . 1
- II 教育の状況について . . . . . 4
- III 研究の状況について . . . . . 3 4
- IV 地域貢献の状況について . . . . . 3 9

令和 3 年 6 月



公立大学法人  
**宮城大学**  
MIYAGI UNIVERSITY

## I 大学の沿革と学生数等について

### 1 大学の沿革と収容定員の推移

宮城大学は平成9年4月に看護学部（1学科）・事業構想学部（2学科）で開学し、平成17年4月には食産業学部（3学科）を設置している。

大学院については、平成13年4月に看護学研究科・事業構想学研究科、平成21年4月に食産業学研究科を設置している。

平成29年4月に学部・学科制から学群・学類制に移行し、看護学群（1学類）、事業構想学群（3学類）、食産業学群（2学類）を設置している。

単位：人

沿革	学群（学部）収容定員				大学院収容定員							合計
	看護	事業構想	食産業	計	看護学研究科		事業構想学研究科		食産業学研究科		計	
					博士前期	博士後期	博士前期	博士後期	博士前期	博士後期		
H9.4 開学 看護学部（1学科） 事業構想学部（2学科）	380	800	—	1,180	—	—	—	—	—	—	—	1,180
H13.4 大学院（修士課程）設置 看護学研究科 事業構想学研究科	380	800	—	1,180	20	—	40	—	—	—	60	1,240
H17.4 食産業学部設置（3学科）	380	800	500	1,680	20	—	40	—	—	—	60	1,740
H20.4 大学院（博士課程）設置 事業構想学研究科	380	800	500	1,680	20	—	40	9	—	—	69	1,749
H21.4 公立大学法人宮城大学設立 大学院（修士課程）設置 食産業学研究科	380	800	500	1,680	20	—	40	9	26	—	95	1,775
H22.4 大学院（博士課程）設置 看護学研究科	380	800	500	1,680	20	9	40	9	26	—	104	1,784
H25.4 大学院（博士課程）設置 食産業学研究科	380	800	500	1,680	20	9	40	9	26	9	113	1,793
H29.4 宮城大学創立20周年 宮城農業短期大学創基65周年 学部・学科制から学群・学類制 へ移行 看護学類（1学類） 事業構想学群（3学類） 食産業学群（2学類）	380	800	500	1,680	20	9	40	9	26	9	113	1,793

課程	看護学群	事業構想学群	食産業学群
学士課程	看護学類	事業プランニング学類 地域創生学類 価値創造デザイン学類	食資源開発学類 (R4.4～生物生産学類) フードマネジメント学類

課程	看護学研究科	事業構想学研究科	食産業学研究科
博士前期課程	基盤看護学分野 成熟期看護学分野 次世代育成看護学分野 広域看護学分野	ビジネスデザイン領域 ソーシャルデザイン領域 空間デザイン領域 情報デザイン領域	食品イノベーション領域 食品ビジネスマネジメント分野 食品技術開発分野 農・環境イノベーション領域 生物生産分野 生物環境分野
博士後期課程	生涯健康支援看護学分野	産業・事業システム領域 地域・社会システム領域	食品研究領域 農・環境研究領域

## 2 学生数（在籍者数）の状況と推移（R3. 5. 1 現在）

令和3年度の在籍者数は、学群（学部）1,807人、大学院92人の合計1,899人となっている。

学群（学部）の男女比は男性約30%、女性約70%、県内外比は県内約65%、県外・海外約35%と例年とほぼ同じ比率となっている。

大学院の男女比は男性約40%、女性約60%、県内外比は県内約63%、県外・海外約37%と例年とほぼ同じ比率となっている。

学群（学部）、大学院ともに例年とほぼ同じく女性、県内出身者が多い状況となっている。

### （1）学群（学部）

単位：人

	H30		R1 (H31)		R2		R3		R3				
	収容定員	在籍者数	収容定員	在籍者数	収容定員	在籍者数	収容定員	在籍者数	男女別内訳		県内外内訳		
									男	女	県内	県外	留学生
看護学群（学部）	380	398	380	404	380	406	380	403	24 (6.0%)	379 (94.0%)	265 (65.8%)	137 (34.0%)	1 (0.2%)
事業構想学群（学部）	800	858	800	859	800	860	800	866	372 (43.0%)	494 (57.0%)	622 (71.8%)	231 (26.7%)	13 (1.5%)
食産業学群（学部）	500	526	500	524	500	522	500	538	170 (31.6%)	368 (68.4%)	277 (51.5%)	250 (46.5%)	11 (2.0%)
合計	1,680	1,782	1,680	1,787	1,680	1,788	1,680	1,807	566 (31.3%)	1,241 (68.7%)	1,164 (64.4%)	618 (34.2%)	25 (1.4%)

### （2）大学院

単位：人

	H30		R1 (H31)		R2		R3		R3				
	収容定員	在籍者数	収容定員	在籍者数	収容定員	在籍者数	収容定員	在籍者数	男女別内訳		県内外内訳		
									男	女	県内	県外	留学生
看護学研究科	29	36	29	32	29	30	29	27	5 (18.5%)	22 (81.5%)	19 (70.4%)	8 (29.6%)	0 (0.0%)
事業構想学研究科	49	34	49	25	49	26	49	33	20 (60.6%)	13 (39.4%)	22 (66.7%)	9 (27.3%)	2 (6.1%)
食産業学研究科	35	22	35	23	35	26	35	32	13 (40.6%)	19 (59.4%)	17 (53.1%)	13 (40.6%)	2 (6.3%)
合計	113	92	113	80	113	82	113	92	38 (41.3%)	54 (58.7%)	58 (63.0%)	30 (32.6%)	4 (4.3%)

### 3 教職員数の状況と推移 (R3.5.1 現在)

令和3年度の教職員数は、教員137人、教員を除く職員102人の合計239人となっている。

教員は、前年度対比で5人増となっている。

正職員は、法人採用職員の割合が増加し、正職員に占める割合は85.5%となっている。

#### (1) 教員数

単位：人

	H30	R1	R2	R3					計
				教授	准教授	講師	助教	助手	
看護学群	48	51	46	14	9	10	12	3	48
事業構想学群	31	34	33	23	7	2	2	-	34
食産業学群	42	40	37	24	7	3	6	-	40
基盤教育群	15	15	15	6	6	1	1	-	14
研究推進・地域未来共創センター (R2までは地域連携センター)	1	1	1	-	1	-	-	-	1
合計	137	141	132	67	30	16	21	3	137

#### (2) 職員数(教員を除く)及び非常勤職員数

単位：人

	H30	R1	R2	R3	備考
正職員 (A)	64	62	62	62	
県からの派遣職員	11	10	10	9	
法人の採用職員	53	52	52	53	
正職員に占める法人職員の割合	82.8%	83.9%	83.9%	85.5%	
非常勤職員等 (B)	54	53	54	40	業務限定職員2名含む
合計 (A+B)	118	115	116	102	

## II 教育の状況について

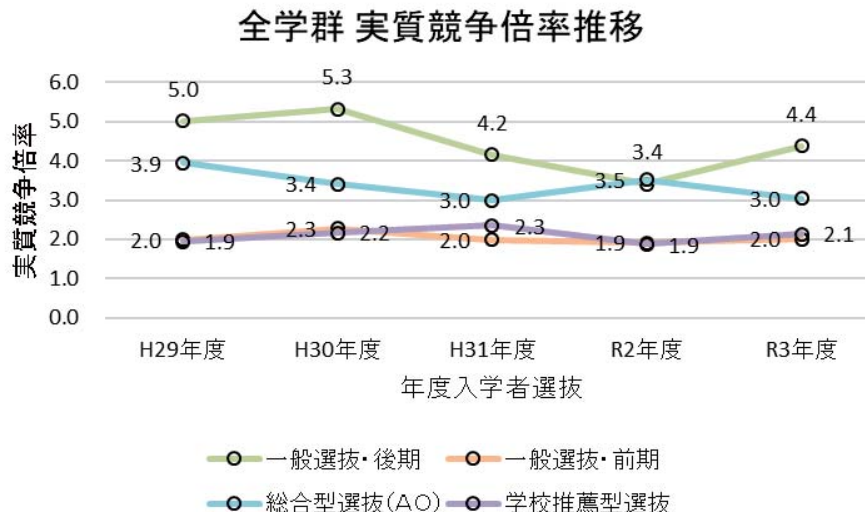
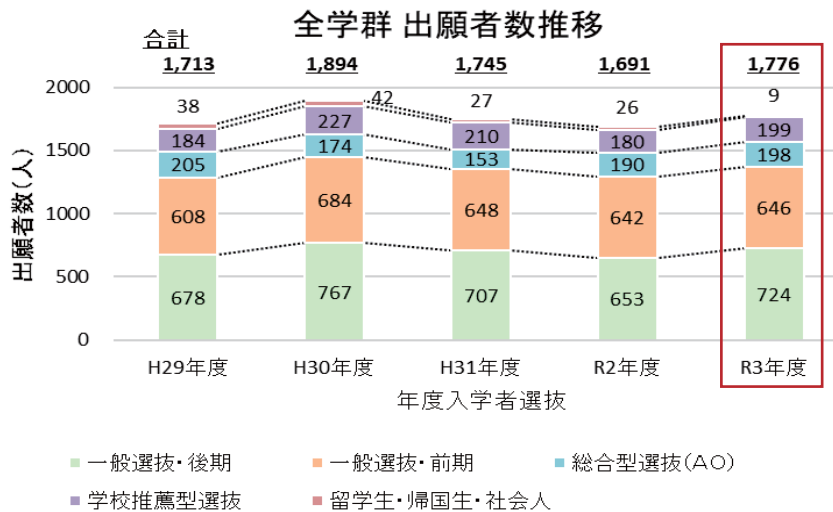
### 1 入試の状況

#### (1) 令和3年度学群入学者選抜

##### ○出願者数等の推移（全学）

本学では学群・学類制への移行に伴い、国の高大接続改革を見据え、平成29年度入学者選抜から入試制度を大きく変更した。主な入試制度改革の内容は、①AO入試の導入（令和3年度入学者選抜より総合型選抜）、②センター試験（令和3年度入学者選抜より大学入学共通テスト）を課す推薦入試への変更、③一般選抜後期日程の募集定員縮小、④一般選抜前期日程の募集定員拡大であり、令和3年度入学者選抜は現入試制度下5度目の入学者選抜となった。

出願者数については、平成28年度入学者選抜まではおおむね1,900人から2,000人程度に推移していたが、平成29年度の入試制度改革以降、出願者数は減少し、おおむね1,700人前後となっている。令和3年度入学者選抜では、一般選抜のほか、専願入試である総合型選抜と学校推薦型選抜においても前年度から出願者数が増加し、対前年85人増の1,776人となった。（平成29年度、平成30年度は編入学者数を除いた値。また、編入学制度については、平成30年度入学者選抜をもって廃止となっている。）



## ○出願者数等の推移（各学群）

### 【看護学群】

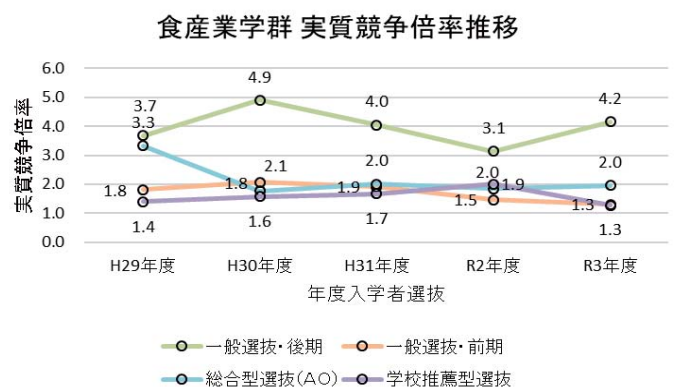
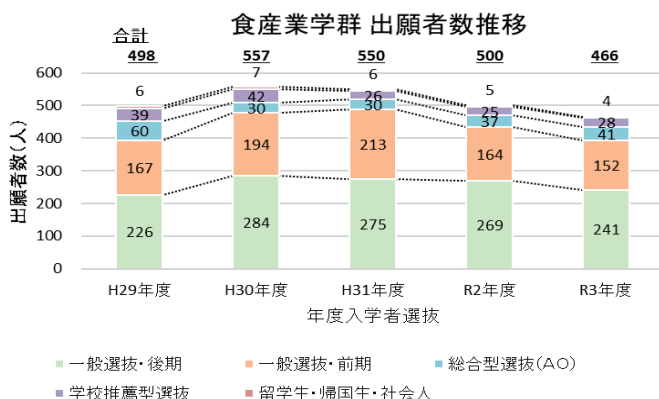
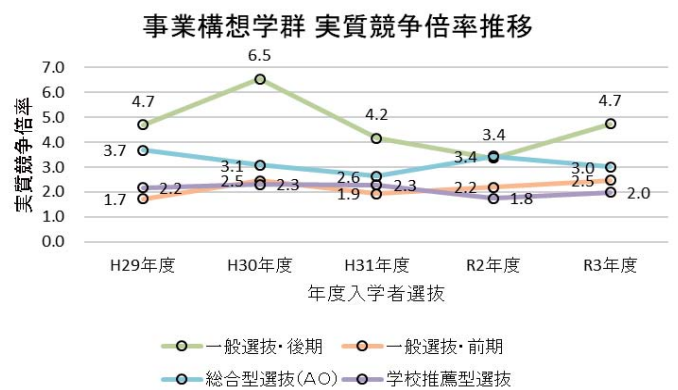
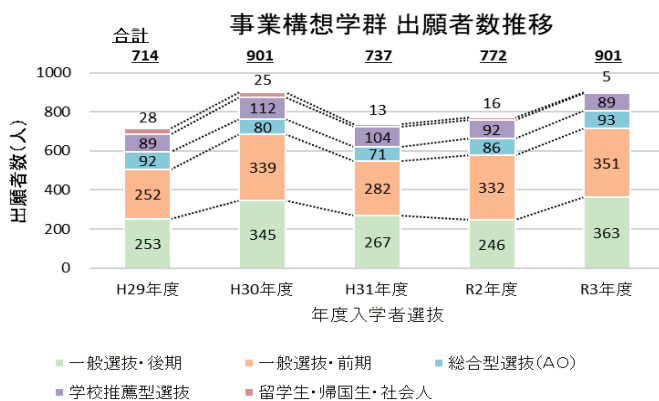
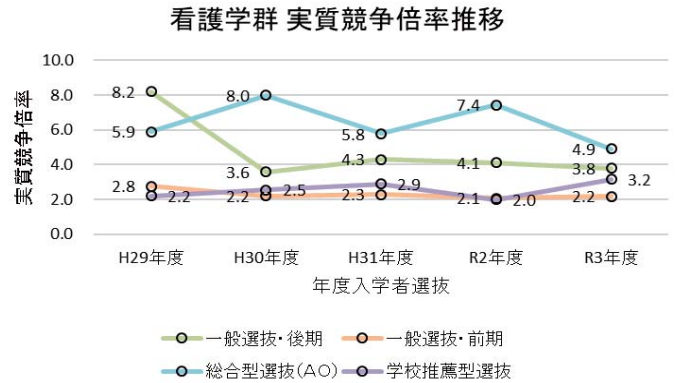
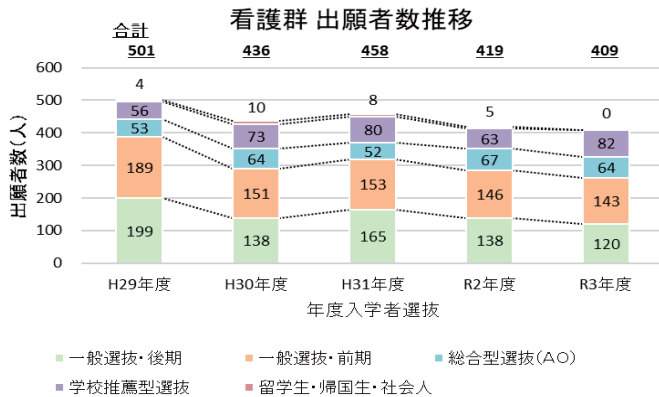
出願者数は令和2年度入学者選抜の419人から409人に減少したが、専願入試となる学校推薦型選抜の出願者数は63人から82人に増加した。

### 【事業構想学群】

出願者数は令和2年度入学者選抜の772人から901人に増加した。なかでも一般選抜後期日程の出願者数が対前年117人増（246→363人）と大幅に増えた。一般選抜前期日程でも、ここ数年出願者数が増加傾向にある。

### 【食産業学群】

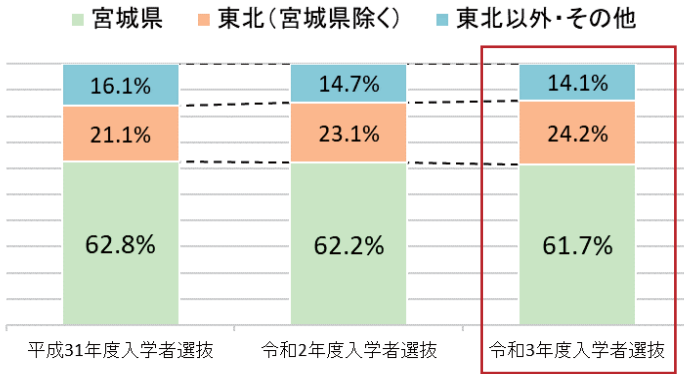
出願者数は令和2年度入学者選抜の500人から466人に減少した。平成31年度、令和2年度入学者選抜に引き続き、専願入試となる総合型選抜、学校推薦型選抜の出願者数が低調であり、全体の出願者数も減少傾向にある。



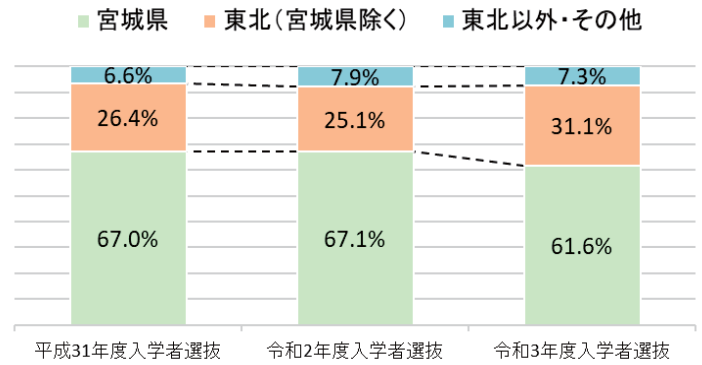
○出願者出身地等

令和3年度入学者選抜における出願者の出身地の割合を見ると、宮城県内出身者は全体の61.7%で、例年同様、約6割を占めている。男女比率についても、男性33.1%、女性66.9%と例年同程度の割合となっている。

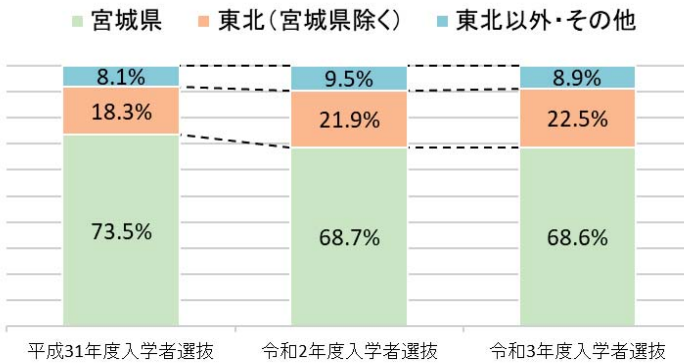
全学群 出願者出身地比率



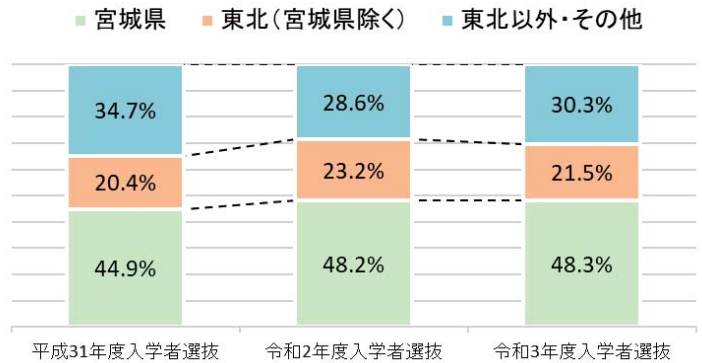
看護学群 出願者出身地比率



事業構想学群 出願者出身地比率

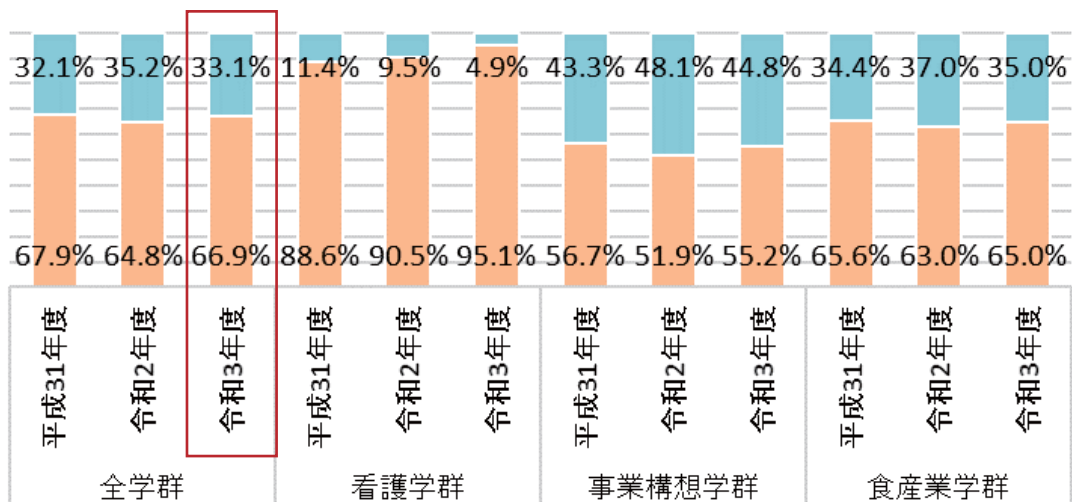


食産業学群 出願者出身地比率



出願者男女比率

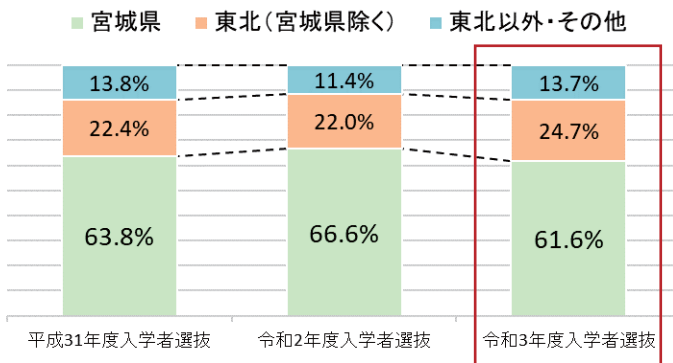
■ 女性比率 ■ 男性比率



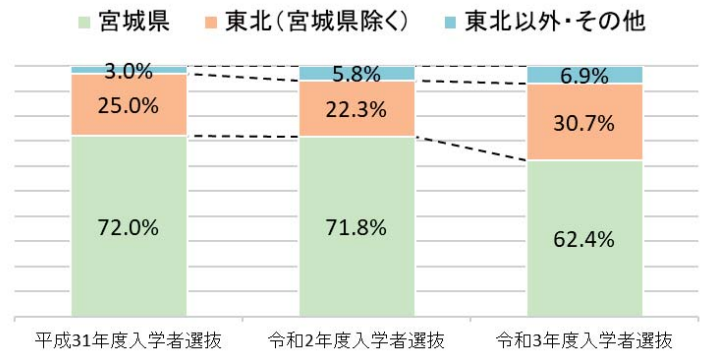
### ○入学者出身地等

令和3年度入学者選抜における入学者の出身地の割合を見ると、宮城県内出身者は全体の61.6%で、例年同様、約6割を占めている。男女比率についても、男性32.7%、女性67.3%と例年同程度の割合となっており、県内比率、男女比率ともに、出願者の比率と同様の傾向となっている。

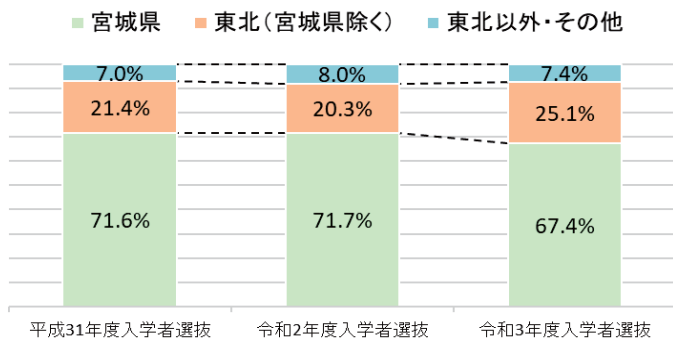
全学群 入学者出身地比率



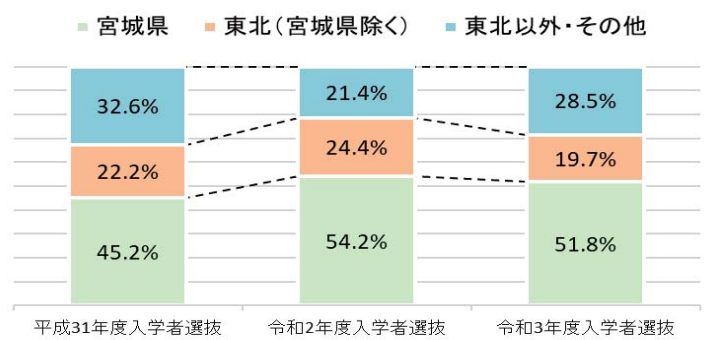
看護学群 入学者出身地比率



事業構想学群 入学者出身地比率

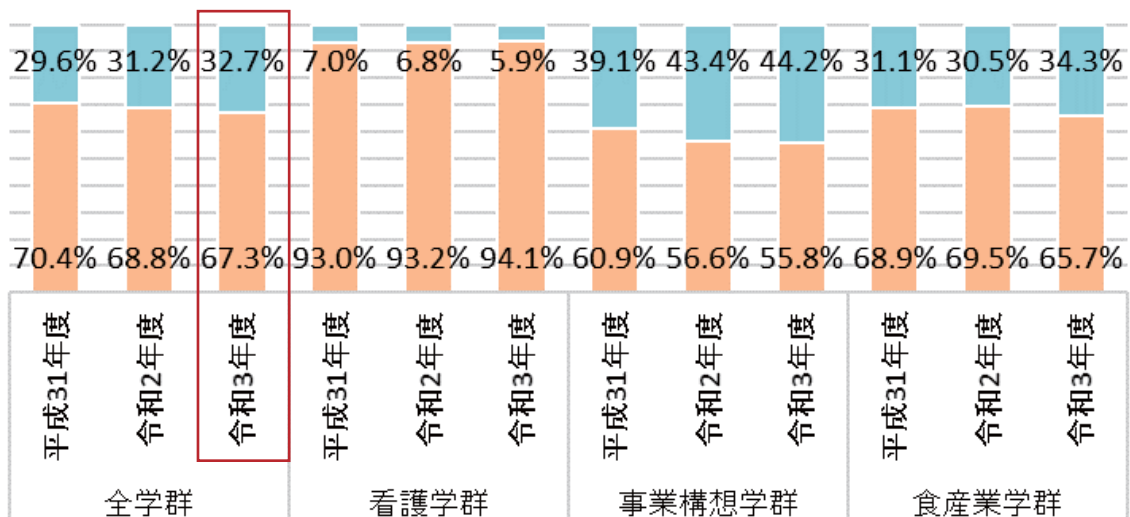


食産業学群 入学者出身地比率



### 入学者男女比率

■ 女性比率 ■ 男性比率





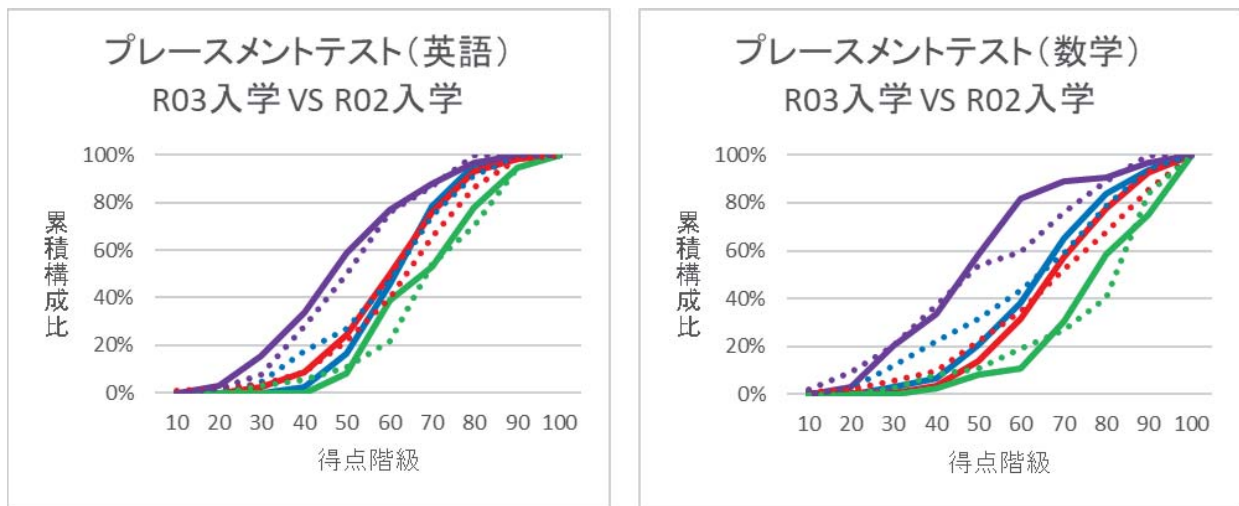
## ○入学者の学力分布

本学では、入学後の指導の参考、入試制度の振り返り等を目的として、1年生を対象に高校までの学びを確認する試験（以下、プレースメントテスト）を入学直後、対面によるペーパー試験により実施している。令和3年度入学者と異なり令和2年度入学者については、新型コロナウイルス感染症の影響により実施時期が半年遅れ、実施方法もオンラインとなった。そのため、年度間での比較は難しいが、本学実施の主な4つの入学者選抜区分ごとの傾向として、令和3年度、令和2年度入学者ともに、一般選抜後期>一般選抜前期=学校推薦型選抜>総合型（AO）選抜の順に基礎学力が高いことがわかる。

また、令和3年度入学者と、入試制度改革直前の平成28年度入学者との学力を比較すると、英語基礎学力の若干の低下と、数学基礎学力の向上が傾向として見られる。

### 入試区分別 R03（実線——）と R02（破線……）プレースメントテスト結果比較

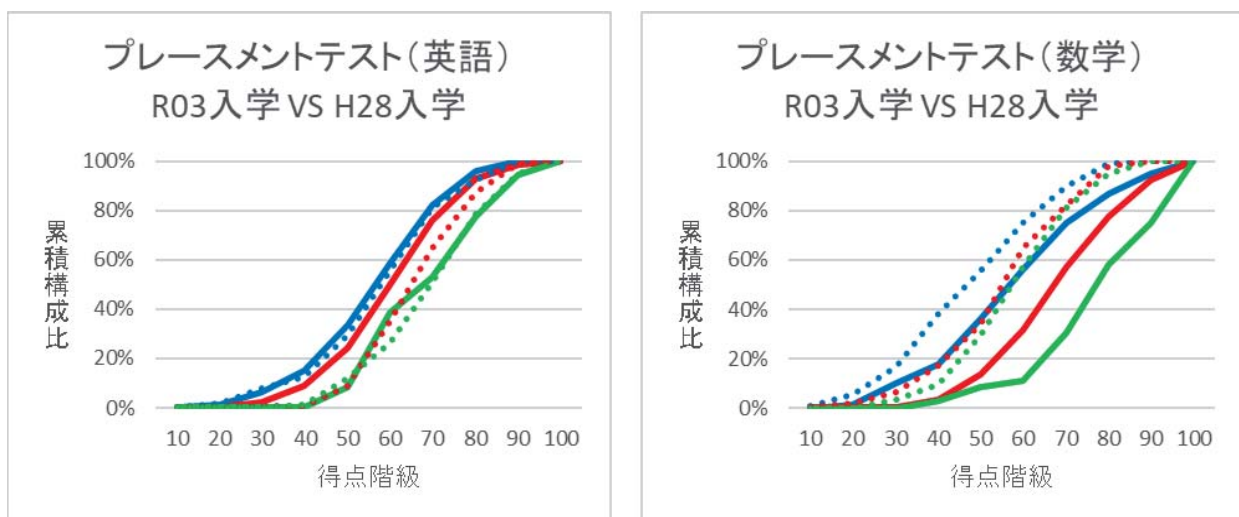
【凡例】総合型選抜（AO）—，学校推薦型選抜—，一般選抜前期—，一般選抜後期—



※ [R03] 総合型 N=65, 推薦 N=92, 前期 N=253, 後期 N=36, [R02] AO N=54, 推薦 N=85, 前期 N=259, 後期 N=37

### 入試区分別 [R03（実線——）と H28（破線……）] プレースメントテスト結果比較

【凡例】総合型選抜+学校推薦型選抜—，一般選抜前期—，一般選抜後期—



※ [R03] 総合型+推薦 N=157, 前期 N=253, 後期 N=36, [H28] 推薦 N=149, 前期 N=202, 後期 N=84

※入試制度改革以降、推薦の募集定員が総合型（AO）と推薦に分かれたことから、R03 データは両区分を合算

## (2) 令和3年度研究科入学者選抜

### ○全学

令和3年度入学者選抜については、52人の募集定員に対し、対前年2人減の35人の受入れにとどまった。学群別に見ると、事業構想学研究科と食産業学研究科では、前年度の入学者数を上回ったが、看護学研究科においては博士前期課程で入学者が13人から3人へと大幅に減少した。看護学研究科では、例年、看護師や保健師として従事している社会人入学者の割合が高く、昨今の情勢により、医療・保健現場の負担が増えたことが影響しているものと考えられる。事業構想学研究科と食産業学研究科の博士前期課程における「地方自治体派遣枠（推薦入試）」については、県内自治体に対して広報を重ねたが、出願には結びつかなかった。

### ○各研究科

#### 【看護学研究科】

入学者は、前年度から博士前期課程で10人の減、博士後期課程では前年同数となった。

#### 【事業構想学研究科】

入学者は、前年度から博士前期課程で3人の増、博士後期課程では1人の増となった。

#### 【食産業学研究科】

入学者は、前年度から博士前期課程で2人の増、博士後期課程では2人の増となった。

### 【出願者数】

(単位:人)

区分		定員	平成29年度 入学者選抜	平成30年度 入学者選抜	平成31年度 入学者選抜	令和2年度 入学者選抜	令和3年度 入学者選抜
看護学研究科	博士前期課程	10	10	13	8	14	4
	博士後期課程	3	2	6	3	1	1
事業構想学研究科	博士前期課程	20	13	11	9	11	17
	博士後期課程	3	3	1	2	2	2
食産業学研究科	博士前期課程	13	11	8	8	10	14
	博士後期課程	3	3	0	3	1	3
合計		52	42	39	33	39	41

### 【入学者数及び社会人選抜受入状況】

(単位:人)

区分	定員	平成29年度 入学者選抜		平成30年度 入学者選抜		平成31年度 入学者選抜		令和2年度 入学者選抜		令和3年度 入学者選抜			
		入学者	うち 社会人	入学者	うち 社会人	入学者	うち 社会人	入学者	うち 社会人	入学者	定員 超過率	うち 社会人	
看護学研究科	博士前期課程	10	9	8	8	8	6	6	13	10	3	30.0%	3
	博士後期課程	3	2	—	4	—	1	—	1	—	1	33.3%	0
事業構想学研究科	博士前期課程	20	12	1	9	6	8	6	11	6	14	70.0%	6
	博士後期課程	3	3	—	1	—	2	—	1	—	2	66.7%	0
食産業学研究科	博士前期課程	13	10	1	7	1	8	0	10	0	12	92.3%	1
	博士後期課程	3	2	2	0	—	3	3	1	0	3	100.0%	1
合計		52	38	12	29	15	28	15	37	16	35	67.3%	11

## 2 教育の内容等

### (1) 学士課程（現行カリキュラム）

#### ① 基盤教育

学部・学科制から学群・学類制に移行し、平成29年度よりスタートした現行カリキュラムでは、基盤教育科目の充実を図り、その科目の実施・運営を行う基盤教育群も同時に設置した。基盤教育の充実にあたっては、技法知・学問知・実践知修得のための全学共通必修科目群「フレッシュマンコア」を配置し、高校教育から大学教育への意識転換とコミュニケーションスキルやクリティカルシンキングなどの基礎的なスキルの修得により、専門教育への円滑な接続を図っている。

#### フレッシュマンコアの基幹科目（3学群共通科目）

科目	内容
スタートアップ・セミナー	25人のクラス単位で、コミュニケーションやディスカッションのスキルを身につけるとともに、自分の考えをプレゼンテーションやライティングの形で表現する方法を学ぶ。
アカデミック・セミナー	スタートアップ・セミナーでの学びを基にして、科学的に思考し説明する方法を学ぶ。他者と協働してアイデアを出し合いながら、自らの表現力を向上させる能力の育成を目指す。
社会の中で生きる	社会の一員として、幸福・正義・公正・人権などの観点から、社会がどのように構成されているのかを知り、自分が社会にどのように関わるべきかを集団討議も交えて考える。
地域フィールドワーク	地域に貢献できる人材の持つべき素養として地域（東北、宮城等）の自然・歴史・文化等を学びながら、地域の多様な人々や地域が抱える課題に目を向け、自らの「果たすべき役割」を考える。

#### ② 特色ある教育内容

それぞれの教育課程の中では、専門分野特性に応じた特色ある教育内容が設定されており、例えば、看護学群では看護の実践力を身につけるとともに、看護マネジメントの視野を養う科目を配置し、事業構想学群では3学位課程に各2コースを、食産業学群では1学位課程に2学類各2コースを設けて専門性の深化を図るとともに、関連科目により幅広い視野での知識獲得を目指す教育体系を構築している。

災害への対応や地域社会に貢献できる人材育成を目指した教育プログラムとして、地域社会の担い手となる「コミュニティ・プランナープログラム」や「災害看護プログラム」、大学間連携教育プログラムとして、奈良県立大学と学生を相互に派遣し単位互換を行うなど、地域特性や本学の強みを活かした特色あるプログラムを導入している。また、産業界と大学との連携による実学教育の充実を目指す「産学連携講座」を開設し、令和元年度、令和2年度ともに、それぞれ2講座を開講した。学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する授業科目として、事業構想学群及び食産業学群を対象としたフレッシュマンコアの基幹科目「キャリアデザインⅠ」、各学群の専門基礎科目群における「キャリアデザインⅡ」、「キャリア開発Ⅰ～Ⅲ」のキャリア開発科目群のほか、インターンシップ科目群（インターンシップ・アドバンストコースを含む。）を配置しており、学群に入学した学生の学類選択から卒業後の進路選択まで一貫した支援を行っている。令和2年度は現行カリキュラムの完成年度であり、初めての学群卒業生を輩出した。

特色ある科目とその内容

科 目	内 容
コミュニティ・プランナープログラム	地域の歴史・文化・資源を活かしたコミュニティづくりや、地域の人々とともに課題解決ができる人材の育成を目指し、兵庫県立大学と連携して構築・推進している教育プログラム
災害看護プログラム	宮城県におけるこれまでの地震災害や日本各地で災害が発生している現状を踏まえ、将来、医療・行政・学校等で活躍できる看護職となる基礎を養うプログラム
奈良県立大学との連携プログラム（単位互換）	宮城・奈良・アジアの学生による交流や協働学修を通して、地域や国際社会におけるリーダーの育成を目指し、奈良県立大学と連携して構築・推進している教育プログラム ※新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度はプログラムを中止した。令和3年度以降については、両大学で協議を進めている。
産学連携講座	企業や団体と連携しながら社会で活躍するための知識と創造力を養うとともに、国と地域社会を支える産業の歴史や課題解決の取組について、直接企業から学ぶ。
インターンシップ・アドバンストコース	県内企業や自治体と協働して独自に開発した学外研修プログラム。実践を通じて「働くこと」の意義や役割を学び、自己の適性を見極めるとともに、早期に職業観を形成し、就労への価値意識や地域社会への理解を深める。 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度はプログラムを中止した。令和3年度以降については、状況を見ながら再開予定

(2) 学士課程（令和4年度からのカリキュラム改編）

令和2年度に完成年度を迎えた現行カリキュラムの実施状況等を振り返り、教育の高度化を図るとともに、第3期中期計画及び2040年に向けた高等教育のグランドデザインを見据えながら、更なる教育の質の向上のため、令和4年度からの新たな教育課程を編成した。

加えて、看護学群においては、令和4年度入学生から保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正に対応した新カリキュラムの適用が求められており、これに対応した教育課程を編成した。

全学的なカリキュラム改編のポイントは、「フレッシュマンコア」を中心とした基盤教育科目の充実であり、AIやデータサイエンスへの対応力を高める科目、地域を知る科目の強化を行うことである。また、各学群専門科目と接続した連続性のある教育が展開できるよう、起業スキルを学ぶアントレプレナーシップ科目などを配置し、令和4年度からの新カリキュラムのスタートに向けて準備を進めている。さらに、食産業学群においては、令和4年度から食資源開発学類の募集を停止し、新たに生物生産学類を設置するための届出を完了しており、高等学校等への広報を強化している。

## 学士課程のカリキュラム改編の基本方針

学群等	改編の基本方針
基盤教育科目	幅広く、偏りなく、多様な、宮城大学での4年間の学びを積み重ねていくための基礎となる「フレッシュマンコア」を中心とした基盤教育科目の充実のため、AIやデータサイエンスへの対応力を高める科目、地域を知る科目等の強化
看護学群	医療保健福祉の状況変化に伴う、更なる臨床判断能力の強化、情報通信技術を活用する能力育成の強化、地域における看護力の強化に向けたカリキュラム
事業構想学群	イノベーション・デザインの実現に向けた、深化し展開する、魅力あるカリキュラム「各学類における学びの深化を促進するための専門科目の拡充」と「学びの幅を広げるための他学類科目の関連科目化」の2系統の科目群
食産業学群	食に関する学びの幅を広げ、学生の将来のキャリア志向に柔軟に対応できる新たな履修モデルを設定したカリキュラム。社会のニーズが変化し、多様化、高度化していく食材としての生物生産に関する学びを高度化させた生物生産学類を令和4年4月に新設

### (3) 食産業学群生物生産学類の設置（令和4年度開設）

近年、少子高齢化、農業従事者の減少、消費者ニーズの多様化等の背景から、わが国の農業の持続性確保のために、効率的な農畜水産物生産体制の確立、生産物の高付加価値化及び海外展開、マーケットインによる消費者開拓が求められている。こうした社会のニーズに対応していくためには、主として農畜水産物の品種改良による高品質化や大規模化、機械化による生産量の拡大に加えて、デジタル技術を活用した新しい生産方式の普及・実装、生産から加工・販売までの6次化を更に発展させる新たな取組も必要とされる。このような社会ニーズの変化に対応し、多様化、高度化する農畜水産物生産を教育研究することができるよう、これまでの実施状況を踏まえたカリキュラムの見直しを行い、①「教育内容の拡充化」、②「領域横断的な科目履修の設定」を新しいカリキュラムの方針として食資源開発学類を改組し、令和4年4月から新たに「生物生産学類」を設置することとした。

①「教育内容の拡充化」では、現行の学問分野（動物系、植物系、水産系）に加えて、IoTやAI等を活用した最先端技術の農畜水産分野への応用が学修できる「生産環境情報系」、経営学・経済学に関する実践的知識を基に食材生産の経営課題に対する問題解決能力を涵養する「生産ビジネス系」、食資源である生物を細胞、遺伝子のレベルで理解し、持続可能で高付加価値な生物生産工学が学修できる「バイオサイエンス系」を新設している。②「領域横断的な科目履修の設定」では、学生の将来のキャリアを踏まえて、現行の2コース制から多様な学びを可能とする6つの履修モデルを設定し、動物系、植物系、水産系に加えて、生産環境情報系、生産ビジネス系、バイオサイエンス系の分野について柔軟な科目選択を可能とし、生物の生産とその供給に関連する幅広い教育を提供できる新たなカリキュラム編成となっている。

#### 生物生産学類の3つの特徴

1	今までにない分野横断的カリキュラム 6つの履修モデルの中から、将来のキャリアに応じた科目を選択可能
2	科目選択の自由度が高い履修ルール 専門科目を幅広く履修することが可能
3	実社会の課題を取り入れた実践型授業 企業とのコラボレーションによる商品企画、実社会で活躍する多彩な講師陣

#### (4) 大学院課程

大学院の各研究科では、博士前期課程・博士後期課程とも講義・演習科目や論文指導科目を組み合わせ履修する仕組みを取り入れており、学生に対して履修モデルを提示することにより、学年進行においてコースワークとリサーチワークのバランスの取れた学修が行われるよう配慮している。また、各研究科の博士前期課程においては、高度専門職業人育成に対応した実践的能力開発のためのプログラムを取り入れている。

#### ○令和3年度からの大学院（博士前期課程）のカリキュラム改編

大学院（博士前期課程）においては、令和3年度から新たなカリキュラムがスタートした。さらに、看護学研究科では、領域及びコースについて編成・見直しを予定しており、引き続き検討を進めている。

今回のカリキュラム改編では、学群・学類制への移行に伴い、平成29年度にスタートした学士課程の現行カリキュラムで学修した学群生が、令和2年度に卒業し、令和3年度から本学大学院（博士前期課程）への進学が可能となることから、学士課程のカリキュラムと接続した体系的なカリキュラムをスタートさせた。また、志願者増へつながるよう、各研究科の特色を生かし、社会人等の多様なニーズにも対応したリカレント教育をはじめとする教育の機会の充実を図るべく、各研究科の教育目標等に適合した魅力ある教育課程を編成した。

#### 大学院（博士前期課程）のカリキュラム改編の基本方針

研究科	改編の基本方針
看護学研究科	地域の高度専門職業人育成に向けた、魅力ある実践的なカリキュラム。「社会人の多様なニーズに応えられるリカレント教育の充実」と「学士課程からの継続教育による高度専門職業人育成」
事業構想学研究科	イノベーション・デザイン学の構築と展開に向けての新たなカリキュラム。「ビジネス、ソーシャル、空間／メディアそれぞれの領域におけるデザイン指向の展開」と「学群教育（3学類）との整合性を担保し、学群教育との連続性、一体性の担保」
食産業学研究科	食産業学領域を多面的に学ぶため、行政・消費者からの視点での新たなカリキュラム。「領域横断的なカリキュラム展開」と「学群教育との連続性、一体性、整合性の担保」

## (5) コロナ禍における授業実施状況等

### ① 令和2年度前期の授業実施状況等

令和2年度前期の授業については、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、令和2年4月27日から開始し、遠隔授業を原則としながら、教育効果上必要な授業科目については、十分な感染防止対策のもと、面接授業を実施した。

また、本格的な面接授業の再開に備え、講義室の改修等を実施した。

#### ○遠隔授業に対応した情報システムの整備

- ・令和2年度前期授業開始前までに遠隔会議システム（Microsoft Teams, Zoom）やウェブカメラを導入し、同時双方向型の授業を実現

#### ○遠隔授業の実施方法

- ・遠隔授業の実施方法は、同時双方向型（テレビ会議方式）とオンデマンド型（インターネット配信型）を採用し、両者を併用して、原則として時間割どおりに実施
- ・学生に対して事前に個々の遠隔授業の受講方法等の情報を周知するほか、学内での受講場所（講義室）を指定するなどして、円滑に実施。

#### 遠隔授業の実施方法

方式	同時双方向型	オンデマンド型
授業場所	講義室又は研究室	事前収録（場所不問）
授業実施時間	原則として時間割に合わせて実施	限定しない。公開は授業日までに行う。
配信方法	Microsoft Teams 又は Zoom	Microsoft Stream を推奨
授業資料・課題提出	LMS, 学務管理システム, 電子メール等	LMS, 学務管理システム, 電子メール等

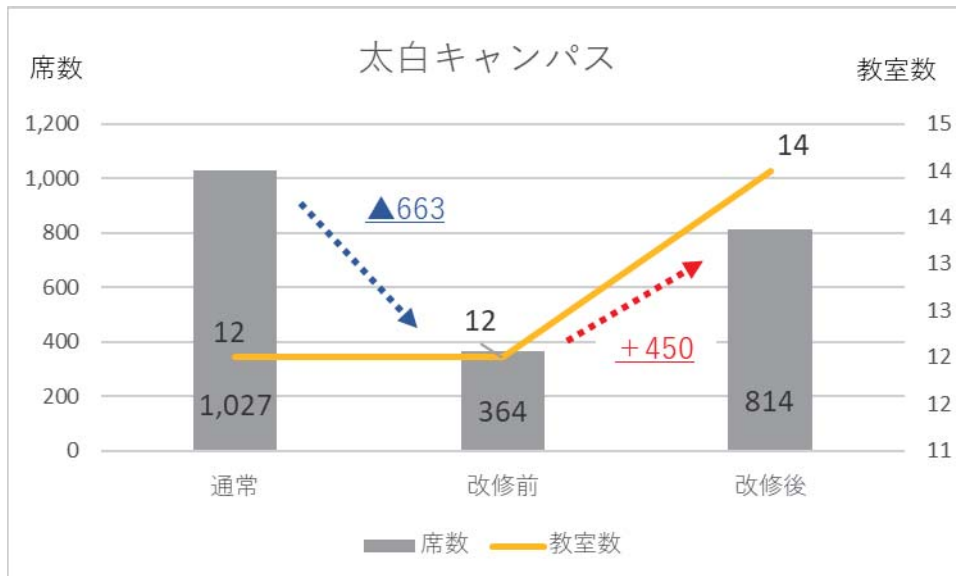
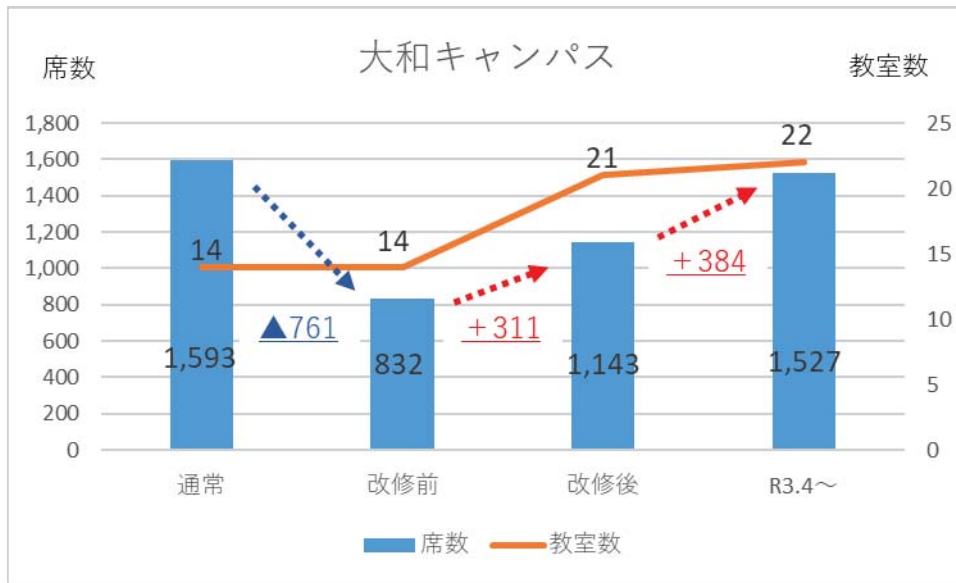
#### ○看護実習代替用機器類の整備

- ・コロナ禍に伴う病院等での看護実習受入困難により、代替となる学内実習強化のため、看護実習用機器類の計画的導入による学生の实習機会を確保
- ・導入した機器やICTを活用した教育手法の拡充により、次期カリキュラムで求められる臨床判断能力や情報通信技術を活用する能力の強化、臨床看護実践能力の向上を図る。
- ・導入した主な機器：各種シミュレーター、ベッドサイドモニター等

#### ○講義室の改修等

- ・面接授業における安全かつ教育の質の維持とソーシャルディスタンスに配慮した席数確保  
 大和キャンパス：研究室、演習室の講義室化（備品、間仕切り撤去等）  
 太白キャンパス：メモリアルホールの講義室化（視聴覚設備新設、照明・空調設備更新、可動機・椅子等整備）  
 キャンパス共通：既存講義室の固定機・椅子の撤去と可動機・椅子の配置
- ・不具合窓等の修繕  
 大和キャンパス：不具合窓修繕（10教室・30箇所）  
 太白キャンパス：網戸設置（管理棟：15箇所、実験棟：76箇所、講義棟：76箇所）

○席数等確保の状況



※「通常」の席数はコロナ禍前の収容席数

※「改修前」の席数は講義室改修前のソーシャルディスタンスに基づく収容席数

※「改修後」の席数は講義室改修後のソーシャルディスタンスに基づく収容席数

※大和キャンパスの「R3.4~」は講堂の講義室としての使用開始による増加分を反映

② 令和2年度後期の授業実施状況等

令和2年度後期の授業については、面接授業の本格的な再開を図り、カリキュラム及び授業科目本来の到達目標達成を前提に、地域の感染状況を踏まえながら、面接授業と遠隔授業を効果的に配分するハイブリッド方式を採用し、おおむね全体の6割強について面接授業を実施した。

また、ハイブリッド方式の採用にあたっては、密にならないように設定した定員上限での講義室確保のほか、学生にとって同じ日に面接授業と遠隔授業が混在しないよう工夫した新しい時間割を設定した。



面接授業の実施状況（令和2年度後期）

学群	実施科目	面接授業 実施科目	面接授業実施率
看護学群（基盤教育科目含む）	53	44	83.0%
事業構想学群（基盤教育科目含む）	104	44	42.3%
食産業学群（基盤教育科目含む）	106	80	75.5%
全学計	263	168	63.9%

学生の入館状況（令和2年度後期）

	在籍学生数	月曜日授業	火曜日授業	水曜日授業	木曜日授業	金曜日授業
大和 キャンパス	1,322人	361人	317人	179人	552人	361人
		27%	24%	14%	42%	27%
太白 キャンパス	548人	205人	278人	231人	214人	236人
		37%	51%	42%	39%	43%

※上段は後期授業15週分の平均入館学生数。ただし、太白キャンパスは第6週以降の10週分の平均

※下段は在籍学生数に占める平均入館学生数の割合

③ 令和3年度の授業実施状況

令和3年度の授業については、令和3年4月8日から開始した。カリキュラム及び授業科目本来の到達目標達成を前提に、地域の感染状況を踏まえながら、第1週目を遠隔授業とし、第2週目以降は新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、大人数授業については、新たに講堂（大和キャンパス）、メモリアルホール（太白キャンパス）を講義室として運用開始するなど、原則としてすべての授業を面接授業として実施している。

また、令和3年度から新たなLMSを導入し、来学しなくても課題の提出や試験の受験、履修者間でのディスカッションを可能にするとともに、学務管理システムに蓄積された履修データや時間割と連結させることで、教員と学生のやりとりも容易となった。

学生の入館状況（令和3年度前期）

	在籍学生数	月曜日授業	火曜日授業	水曜日授業	木曜日授業	金曜日授業
大和 キャンパス	1,329人	799人	1,061人	902人	1,073人	898人
		60%	80%	68%	81%	68%
太白 キャンパス	570人	414人	336人	273人	392人	352人
		73%	59%	48%	69%	62%

※上段は、4/15～6/18（祝日を除く）の平均入館学生数

※下段は、在籍学生数に占める平均入館学生数の割合

### 3 教育環境の整備

#### (1) 新型コロナウイルス感染症対策

##### ① 組織体制の整備

- ・宮城大学新型コロナウイルス感染症対策本部の設置（令和2年2月の第1回本部会議以降，令和3年5月末までに計13回開催）
- ・同本部のもとに以下の組織を設置し，体制を強化
  - 授業実施管理調整室：授業実施方針など授業に関する全学的な事項の調整・検討
  - 対面授業等の合理的配慮に関する特別委員会：対面授業への出席に不安を訴える学生の申し出に基づき合理的配慮の妥当性を判断
  - コロナウイルス登校相談チーム：面接授業の本格的な実施に対応するため，学生等からの登校相談を専門とする窓口

##### ② 学生への注意喚起

- ・前期・後期授業の開始時，ゴールデンウィーク・年末年始など移動が活発になる時期など時機を捉えた学生への注意喚起の実施
  - 学長メッセージ（R2：4回）：感染症対策の確実な実施，遠隔授業の開始，後期授業の方針，外出・移動自粛の要請など
  - SSC長メッセージ（R2：7回）：外出・帰省・移動の自粛要請や感染症への備えなど
- ・オリエンテーション等での学生への感染症対策に関する周知・意識づけの実施

##### ③ 入構時の対策

- ・毎朝の検温と体調チェック（37.5℃以上の熱がある場合は自宅休養）
- ・通学中及び大学構内でのマスクの着用徹底とマスク未着用者の入構禁止
- ・カードリーダーによる入退館管理 → サーマルカメラによる検温 → 手指消毒という動線の明確化

##### ④ 講義室での対策

- ・ソーシャルディスタンス確保のため，講義室ごとに人数上限の設定（文部科学省指針）と座席配置の見直し
- ・定期的な換気（30分に1回）と消毒（1日1回）の実施
- ・固定されていない机・椅子の移動禁止
- ・学生による机・椅子の消毒

##### ⑤ 昼食時の対策

- ・黙食の励行
- ・カフェテリアの人数上限の設定と座席配置の見直し
- ・カフェテリアテーブルへの飛沫感染防止用アクリル板（高さ60cm）の設置
- ・学生による使用後の消毒

## ⑥ サークル活動の制限

- ・オンラインでの活動が原則
- ・対面活動の許可制（サークル団体からの申請に基づき、スチューデントサービスセンターが活動内容を確認し、対面での活動を許可）
- ・対面活動の原則（令和3年7月上旬頃まで）
  - 1) 2時間以内 2) 10人以内 3) 土日祝日のみ 4) 学内における活動
  - 5) 学内者による活動 6) 顧問（教職員）との情報共有

## ⑦ 学生への経済的支援（令和2年度）

- ・授業料減免手続受付期間及び授業料納付期限の延長
- ・高等教育への修学支援新制度による認定（家計急変学生2名）
- ・学生支援緊急給付金（350名に計4,080万円を給付）
- ・地方創生臨時交付金による緊急授業料減免（13名の減免を決定）
- ・新型コロナウイルス感染症対策助成金（日本学生支援機構助成事業、8名に計80万円）

## (2) ラーニングコモンズ

学生による主体的な学び（アクティブ・ラーニング）を促進する学修活動の場として、平成29年度からラーニングコモンズの整備に着手し、令和3年4月までに大和・太白両キャンパスにそれぞれ4つのコモンズ（スチューデントコモンズ、グローバルコモンズ、ディスカバリーコモンズ、データ&メディアコモンズ）が開設されている。

各コモンズには学修支援者としての学生スタッフが常駐し、コモンズを利用する学生に対し学修方法を教えることで主体的な学修を促す役割を果たしている。学生が授業での疑問点を持ち寄りディスカッションを開くことも多く、それに対し教員が補足指導を行っている。

また、令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症対策による遠隔授業の導入・実施を踏まえ、ウェブ上にTeams コモンズ 2021 を立ち上げ、在宅で授業を受ける新入生の相談窓口として、遠隔での学修支援も行っている。

### 4つのラーニングコモンズ

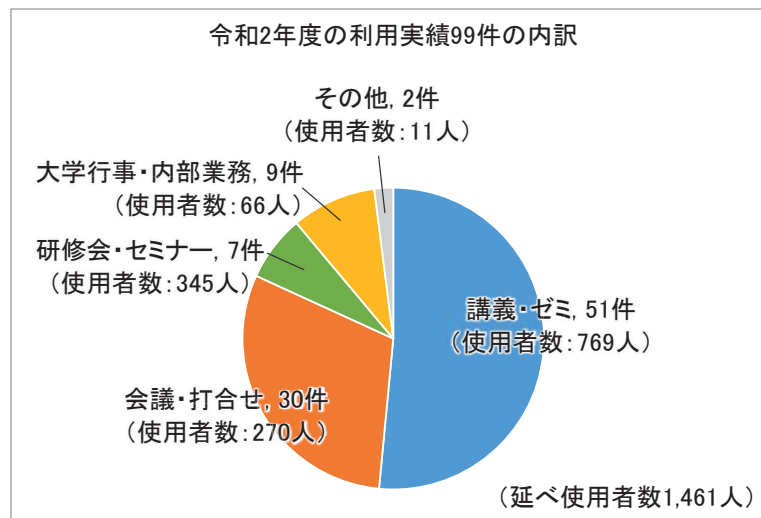
種類	概要
スチューデントコモンズ	思い立った時に気軽にミーティングを開く、授業後、疑問点を教員や友人とすぐに確認しあう、ゼミ仲間とリラックスしながらブレストを行うなど、使い勝手のよいスペース 【活動実績】先輩による履修相談会、数学統計質問コーナー
グローバルコモンズ	海外留学や語学試験等いつでも相談できるスタッフが常駐し、豊富な英語学習教材、ランゲージブース、語学練習可能なミーティングルーム、留学生が集うフリースペース、海外放送や海外雑誌が楽しめるスペースが設けられている。 【活動実績】フランス語レッスン、スピーチコンテスト
ディスカバリーコモンズ	約13万冊の蔵書を誇る図書館で横断的にリサーチしながら、その場でさまざまな課題について仲間たちと意見を交わしたり、ディスカッションしたりすることができる、ミーティングスペースやフリースペースを備えたスペース 【活動実績】六限の図書館（開所イベント）、読書会
データ&メディアコモンズ ※太白：R3年度開設予定	4つのセクション（①オープンスタジオ（太白はアクティブラーニングスタジオ）、②デジタルリサーチ、③メディアシアター（大和のみ）、④サポートワース）から構成され、自主学修や研究、3Dプリンタを使用した制作活動などを行うための多様な支援を提供するスペース 【活動実績】3Dプリンタ講習会、PCサポートカウンター

### (3) オープンスタジオ (PLUS ULTRA-)

大学と社会、地域との接点となり、産学・自治体・地域連携に向けた大学の機能を十分に発揮するため、平成30年度に交流棟2階メインスペースのリニューアルを行った。

名称を「PLUS ULTRA-」(プルスウルトラ。ラテン語で「さらなる前進」という意味)とし、視聴覚機器(大型モニター、スピーカー)等を常備することで多目的な使用を可能にして、地域交流のイベントやセミナー、研究成果のプレゼンテーション、デザインワークショップなど、大学が拠点となる社会的、対外的、教育研究的な活動を行う。

令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症対策を行い、講義やゼミに活用するとともに、自治体向けセミナー及び大和町議会懇談会の開催、事業構想学群卒業研究・制作公開クリティークの一般公開など地域の拠点としても活用した。



### (4) デザイン研究棟

様々な資源を総合した価値の構築や、着想から実現、運用までのすべてのプロセスをデザインし、実践できる能力を養成することを目的に、デザイン研究棟を建設した(令和2年6月竣工。鉄骨造3階建て、建築面積約620㎡、延べ面積約1,730㎡)。

価値創造デザイン学類の教員研究室(15室)と、隣接して学生が教員と一緒に研究に取り組めるよう「オープンスタディ」スペースを各階に設置し、また、高度な機器を利用してコンテンツ制作を行う「クリエイティブラボ」、ユーザエクスペリエンスの実験を行う「デザインラボ1・行動観察室」、より高度なデジタル技術を用いた研究・制作を行う「デザインラボ2」といった、専門的な研究・制作を行うラボも設置した。

このデザイン研究棟を東北における新たなデザインの拠点とするため、「デザインスタディセンター」を立ち上げ、「学群を超えた知の接続」、「地域社会との継続的な共創」、「学外の先進的な知見の獲得」を目指すとともに、企業との共同プロジェクトやデザイン教育・研究を展開することとしている。その第1弾となる外部連携プロジェクトとして、東北の様々な信仰や祈りをテーマとした先進メディア表現による企画展示「いのりのかたち展」を開催し、学内外との連携や交流を促す新たな取組を進めている。また、震災後10年となる令和3年3月11日を含む期間において、本学が長らく復興支援活動を続けてきた南三陸町長清水地区の人々の音声アーカイブと造形インスタレーションを展示公開し、東日本大震災以降の地域貢献の現在についての表現も行っている。

## 4 留学生の受入れ及び留学等の状況

### (1) 留学生の受入状況

外国人留学生入学者数は5名であり、例年（10名前後）より少なくなっている。国籍別では中国やベトナムをはじめとするアジア出身者が多い。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、外国人留学生の出願者数が減少したことから、事業構想学群（部）では開学以来初めて入学者がゼロとなった。

表1. 所属別外国人留学生入学者数（過去4年間、各年度5月1日時点）

所属		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	合計
学群	看護	1	0	0	0	1
	事業構想	4	6	2	0	12
	食産業	1	3	3	2	9
研究生	看護	0	0	0	0	0
	事業構想	0	0	0	0	0
	食産業	0	1	0	0	1
小計		6	10	5	2	23
大学院	看護	0	0	0	0	0
	事業構想	0	1	0	2	3
	食産業	1	0	1	1	3
小計		1	1	1	3	6
年度別合計		7	11	6	5	29

表2. 国籍別外国人留学生入学者数（過去4年間、各年度5月1日時点）

地域	国籍	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	合計
アジア	中国	4	8	4	2	18
	ベトナム	2	1	1	2	6
	モンゴル	0	0	1	0	1
	韓国	0	1	0	0	1
	台湾	0	1	0	0	1
	マレーシア	1	0	0	0	1
	インドネシア	0	0	0	1	1
年度別合計		7	11	6	5	29

## (2) 大学間国際交流協定の現状

海外協定締結数は、学生ニーズの高い英語圏の開拓に主として取り組み、令和3年5月1日現在で8か国、計13大学となっている。また、令和元年度よりベトナム・タイ以外の東南アジア地域を中心に交流大学の開拓を行い、令和2年度にはマレーシア、台湾の大学と交流協定を結ぶに至った。学生交流として、交換留学や短期研修で毎年複数の協定校に学生を派遣しているが、交換留学生の受入実績は少なく、相互交流のアンバランスが課題となっている。

表3. 海外交流大学（令和3年5月1日時点）

国	大学名 (略称)	締結年	協定内容			交流実績（平成23年度以降）	
			学生交流 交換留学	短期 研修 等	教員 交流		
タイ	キングモンクット 工科大学トンプリ校 (KMUTT)	2010	○	○	○	2011年10月 事業構想学部生1名 交換留学（1ターム～2012.3）	
						2014年9月 三石教員がKMUTT研究交流訪問	
						2019年6月 曾根教員が訪問し、英語科教員と研究交流	
						2020年1月 国立研究開発法人科学技術振興機構が募集している「日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）」に応募、採択され、先方の教員と学生を招聘（教員1名、学生2名）	
ベトナム	フェ外国語大学 (HUFL)	2014		○	○	2013年～ リアル・アジア第3弾～第12弾で大学を訪問、先方の学生と交流会・フィールドワークを実施（担当：フェラン教員）	
						2018年3月 川上学長が訪問	
						2018年7月 先方の教職員及び学生とスカイプディスカッションを実施	
	アンザン大学 (AGU)	2014		○	○	2013年～ リアル・アジア第4弾・第5弾で大学を訪問、先方の学生と交流会を実施（担当：フェラン教員）	
						2015年～	リアル・アジア第6弾～第10弾で大学を訪問、先方の学生と交流会を実施（担当：フェラン教員）
							2016年5月 ドンタップ学長、大学関係者4名が本学特任教員2名（ユン、チャウ）とともに本学を表敬訪問
ドンタップ大学 (DThU)	2015		○	○	2016年9月 西垣学長が訪問		
英国	ロンドン・メトロポリタン 大学 (LMU)	2014		○	○	【受入実績】	
						約2週間デザインワークショップやフィールドワークを実施	
						2014年 20名	
						2015年 19名	
						【主な交流実績】	
						2013年9月 中田教員ゼミ卒業生がLMUに留学したことを契機に交流に係る打診あり	
						2013年11月 デザインワークショップのためSigny氏、大学院生10数名来学	
						2014年3月	高山理事、フェランセンター長、教員3名（岩堀、井上、中田）、職員1名（佐藤尚志）が訪問
							Robert Mull建築学部長、Signy Svalastoga副学部長、Anne Markey氏（Director of CASS Projects）、Marcus Bowerman氏（Head of Technical Support）、Chris Emmett氏（Deputy Head of School of Design）と交流に向けた協議及び視察
						2014年3月	LMU視察を経て今後の計画を検討
							漆プロジェクトの英語版資料作成を土岐教員に依頼し、今後のコラボレーションの可能性について資料を作成
2014年9月	Signy Svalastoga副学部長来学						
	MOU締結						
2014年11月 デザインワークショップのためSigny氏、大学院生10数名来学。亀倉ギャラリーにてデザインWork発表会開催							
2019年8月 MOU再締結							

米 国	デラウェア大学 (UD)	2007	○	○	○	2006年12月 三橋教員が訪問・打ち合わせ 2007年11月 一般交流協定締結 2021年3月 語学に関するオンラインプログラムを学生1名（事業構想）が受講
	アーカンソー大学 フォートスミス校 (UAFS)	2012	○	○	○	【交換留学生数（派遣）】
						2012年 2名（事業構想2）
						2013年 2名（事業構想1, 食産業1）
						2014年 1名（事業構想1）
						2015年 2名（事業構想2）
						2016年 1名（事業構想1）
						2017年 2名（事業構想2）
						【主な交流実績】
						2011年8月 東日本大震災被災者支援としてUAFS及びフォートスミスコミュニティからの奨学金を得て、フルスカラーシップ（授業料、寮費、航空運賃、保険、食費、滞在費月額\$500）で事業構想学部生2名がBusiness Administration専攻で留学（～2012.5）
						2011年10月 Ray Wallace副学長、スズキタケオ国際センター長来学 将来的な交流について意見交換
						2012年4月 弦本副学長、フェランセンター長UAFS訪問 交流について協議（学生相互派遣、教職員相互派遣、教育活動共同実施等）
						2012年5月 Beran学長、Janice学長夫人、Weidman Board of Visitors議長、スズキタケオ国際センター長来学 一般協定締結
						2012年5月 UAFS Bridge Scholar Program（長期交換留学プログラム）創設
2012年10月 高校生英語スピーチコンテストUAFS後援 特別賞用賞品を提供						
2013年11月 笹井副学長、フェランセンター長、職員1名（若居）UAFS訪問 学長表敬訪問、交流打合せ(Maymester受入れ、今後の学生・教職員交流内容等)、派遣学生との交流						
2013年2月 Maymester（夏季休暇中の特別授業期間）への受入れ打診 2週間プログラム、定員8名程度						
2013年5月 食産業界交換留学生Dean's List受賞						
2014年6月 Beran学長、スズキタケオ国際センター長来学 学長表敬訪問、2014年度派遣予定学生との懇談、 留学報告会・懇談会（UAFS留学帰国生4名がプレゼン）、 みちのく未来基金打合せを実施						
2016年3月 長屋副学長、教員2名（曾根、Wilson）、職員1名（藤本）訪問 学長表敬訪問、派遣プログラムの意見交換、協定の更新依頼、本学から派遣している学生の状況確認・意見交換、 Japan Clubとの交流などを実施						
フ イ ン ラ ン ド	タンベレ応用科学大学 (TAMK)	2010	○	○	○	【受入実績】
						2013年 看護学生4名を短期で受入実績あり
						【交換留学生数（派遣）】
						2012年 3名（看護1, 事業構想2）
						2013年 3名（事業構想3）
						2014年 4名（事業構想4）
						2015年 4名（事業構想3, 食産業1）
						2016年 2名（看護1, 事業構想1）
						2018年 3名（看護1, 事業構想2）
2019年 2名（事業構想2）						

フ イ ン ラ ン ド	タンペレ応用科学大学 (TAMK)	2010	○	○	○	【主な交流実績】		
						2011年2月	R&DユニットPerttu Heino氏来学 学生交流（長期，短期）等交流について打合せを実施	
						2011年8月	学生7名（事業構想3，食産業4）夏季R&Dインターンプログラム参加	
						2011年10月	TAMK副学長，看護学部教員2名，R&Dユニット研究員1名来学 看護学部実践看護英語演習及び留学生受入れ打合せ， 医療施設見学， 仙台フィンランド健康福祉センター見学， 被災地視察等	
							2nd Joint Symposium of TAMK - Miyagi University開催 10/28 13:30-17:45 @大和大会議室 スピーカー：弦本副学長，Karttunen副学長，教員9名（関戸，高橋方子，Yli-Koivisto，Keiski，Salin，小野，萩原，富樫，平岡），小笠原氏（フィンランドセンター）	
							2012年8月	学生6名（事業構想5，食産業1）夏季R&Dインターンプログラム参加
						2013年3月	フェラン国際交流・留学生センター長訪問 International Serviceスタッフとの打合せ， 派遣学生との交流，学長・副学長表敬訪問， 研究開発教育サービススタッフとの打合せ， 看護学部との打合せ等	
							2013年8月	学生4名（事業構想2，食産業2）EU-Russian Summer Study Program - Understanding the European Union and Douing Business in Russia- 参加
							2013年9月	フェラン国際交流・留学生センター長，吉田看護学部長，教員2名（小野，平木）訪問 大学間連携の検討，大学院視察，交換留学派遣生との交流等
						2013年9月	TAMK主催教育セミナー参加 発表者①：小野教員 "Nursing to support the integration of the life of the elderly people in the place of the sanatorium type medical care facilities for elderly person." 発表者②：吉田学部長 "Disaster Relief Activities of Miyagi University School of Nursing for the recovery from the Great East Japan Earthquake"	
							2013年9月	TAMK主催シンポジウム "Active Ageing - Good Practices and Operations Models in Europe"参加 発表者：平木教員 "Recognition and Problems on Dementia in Japan. Activities that Older People in Japan Work on to Prevent Dementia"
						2014年8月	学生10名（事業構想6，食産業4）TAMK Summer School Program - European-Russian Tourism Business-参加	
						2014年8月	科研費による共同研究打合せ，教員2名（小野，河原畑），大学院前期課程学生訪問（先方窓口はシルバ教員）	
						2014年8月	実践看護英語演習 学生8名参加。教員3名（原田，小野，河原畑）が引率	
						2015年8月	学生12名TAMK Summer School Program，曾根教員引率（Tampere, Finland及びSt. Petersburg, Russia）	
						2015年8月	実践看護英語演習 学生6名参加。教員1名（塩野）が引率	
						2016年8月	実践看護英語演習 学生5名参加。	
						2016年11月	TAMKより人事担当者，看護系教員など4名が本学訪問(2日間)	
						2017年8月	実践看護英語演習 学生3名参加。	
						2017年11月	TAMKよりロボット工学研究者，看護系教員などが本学訪問	
						2018年5月	Hackathon開催 TAMK学生5名，TUAS学生9名，本学学生13名が参加（フェラン教員担当）	
							2018年6月	MOU再締結
						2018年8月	実践看護英語演習 学生8名参加。教員1名（Chang）が引率	



フィンランド	トゥルク応用科学大学 (TUAS)	2016	○	○	○	【受入実績】	
						2019年	2名受入れを実施
						【交換留学生数 (派遣)】	
						2017年	1名 (食産業1)
						2019年	1名 (事業構想1)
						【主な交流実績】	
						2016年2月	Juha Kontio氏とElina Kontio氏が来学。MOU締結の意向あり
						2016年5月	MOU締結 (宮城大学にて調印式実施)
						2016年9月	Vesa Taatila学長, Juha Kontio教員, Janne Roslöf教員, Anne Norström教員が来学。(表敬訪問)
						2018年5月	Hackathon開催 TAMK学生5名, TUAS学生9名, 本学学生13名が参加 (フェラン教員担当)
2019年12月	Student Exchange Programme Agreementを締結						
オーストラリア	ロイヤルメルボルン工科大学 (RMIT)	2009 (2019)	○	○	○	2006年4月	豪日交流基金より2006 Sir Neil Currie Curriculum Development Award 受賞, RMITとのコンタクトを開始
						2006年8月	三石教員がメルボルンを訪問, Dean/Professor Peter Coloeと協定の可能性について打合せを行い, 講演を実施
						2007年1月	MOU締結
						2008年4月	Peter Coloe氏による特別講演実施(太白)
						2009年2月	菰田教員をRMITへ客員研究員として1年間派遣
						2009年9月	第1回講演(ジョイントシンポジウム)を実施(太白)
						2009年12月	第2回ジョイントシンポジウムをメルボルンで実施。宮城大学側からは馬渡学長以下5名が渡豪, ここで先方学長とともに協定締結
						2010年3月	第1回春季海外研修として本学学生がRMIT訪問
						2010年8月	第3回ジョイントシンポジウムを実施(太白)
						2010年11月	RMITより短期客員研究員 (Dr.Emily Gan) 来日
	2011年3月	第2回春季海外研修として本学学生がRMIT訪問					
	2011年3月	第2回海外研修(英語講義受講生宮城大学奨励基金対象)					
	2011年12月	第4回ジョイントシンポジウムをホーチミン・シティで実施					
	2012年9月	三石教員が, 豪州政府よりEndeavor Executive Award受賞, 2カ月間RMIT滞在, 講演を実施					
	2012年3月	第3回海外研修(豪州首相日本対象教育支援プログラム-震災復興支援-奨学金受給)					
	2018年8月	曾根教員が訪問					
	2019年3月	MOU再締結 (食産業界学群)					
	サザンクロス大学 (SCU)	2019	○	○	○	2018年8月	教員2名 (塩野, 曾根) が訪問
						2019年4月	MOU締結 (看護学群・基盤教育群)
						2018年9月	リアル・オーストラリア(短期研修)6名 (事業構想4, 食産2)
2019年8月						国際看護プログラム 学生4名参加。教員2名 (塩野, 松永) が引率	
2019年9月						リアル・オーストラリア(短期研修)11名 (事業構想6, 食産5)	
2021年3月						国際看護プログラムとしてオンライン交流等を実施。学生5名参加。	
マレーシア	サンウェイ大学 (SU)	2020	○	○	2019年3月	曾根教員がマレーシア大使館, マレーシア政府観光局に打診。窓口である政府観光局を訪問。協定校として複数校紹介を受ける。	
					2019年6月	マレーシア政府観光局長徳永氏 宮城大学訪問	
					2019年7月	Sunway, Taylors, KDUの3校を訪問。Sunwayを候補として選定。	
					2020年10月	MOU締結 (基盤教育群)	
台湾	中原大学 (CYU)	2020	○	○	○	2017年3月	黄俊銘氏 (設計学院) 他台湾の建築系大学の教員がせんだいメディアテークで開催されている卒業設計日本一決定戦に来場。大学間交流の実施に向け意見交換を行い, その年の中原大学設計学院建築卒業設計発表会にゲスト講師として参加が決定。
						2018年5月	中原大学設計学院建築卒業設計発表会にゲスト講師として参加
						2019年5月	中原大学設計学院建築卒業設計発表会にゲスト講師として参加
						2019年10月	黄俊銘氏 (設計学院) とMOU締結に向けた具体的な条件等について確認作業を都内で行う
						2020年12月	MOU締結 (事業構想学群)

### (3) 海外派遣の状況

一般交流協定に基づく交換留学，リアル・アジア等により毎年 30 名前後の学生を海外に派遣しているが，新型コロナウイルス感染症の影響により，令和元年度はリアル・アジア，令和 2 年度はすべての海外派遣を中止した。

リアル・アジア（短期研修）は平成 25 年度より，協定校交換留学については平成 26 年度より日本学生支援機構海外留学支援制度の給付型奨学金プログラムとして採択され，一定の家計・成績要件を満たす派遣学生に対し奨学金を支給し，経済的負担を軽減させている。その他，学務課において日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣）や官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～等の外部奨学金の申請サポートを行い，支援を行っている。また，平成 30 年度から「リアル・オーストラリア」（短期語学・多文化理解促進研修）を新たに実施し，宮城大学学習奨励基金より，学修奨励支援（令和元年度実績：11 人×7 万円＝77 万円）を行った。（なお，宮城大学学習奨励基金については，令和元年 10 月 1 日付けで廃止となっている。）

派遣費用が全額自己負担となるプログラムの中には派遣実績が伸び悩むものもあるため，今後は費用の面での支援も含めプログラムを検討する必要がある。

表 4. 海外派遣者数（過去 4 年間）※1

プログラム	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度※2	備考
協定校交換留学 (5 か月間もしくは 10 か月間)	3	3	3	0	
リアル・アジア (短期研修：約 2 週間)	24	15	0	0	R1 はコロナ禍による中止
実践看護英語演習 (看護学部専門科目：約 2 週間)	3	8	4	(5)	R2 はオンライン交流を実施
リアル・オーストラリア (短期語学・多文化理解促進研修：約 2 週間)	-	6	11	0	
トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム	1	3	2	0	

※1 派遣者数は，各年度中（4 月 1 日～翌年 3 月 31 日）に渡航を開始した人数

※2 令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により，海外派遣はすべて中止となった。

## 5 休退学の状況

休学者数は、海外渡航等の積極的理由を除いて毎年20名前後で推移している。退学者数は令和2年度9名と少なかったが、その理由において進路変更が多数を占める傾向は続いている。

看護学群（部）では、成績不振等（必修科目不可による留年）による休学がゼロになった。看護学群（部）の休退学においては、進路変更と心の問題に集約される。事業構想学群（部）では、成績不振に伴う休学、進路変更等（学習内容と入学前のイメージや適性との違い）による休退学が多い。食産業学群（部）の退学者は2名とも進路変更であり、うち1名は他大学を卒業後、食産業学群に入学した社会人学生で、大学院の高度な学修をしたいと希望し、研究生を経て、食産業学研究科を受験・入学し直したケースである。

教務部門と学生支援部門の教職員の連携を強化したチュードントサービスセンターと、学生相談室・保健室を含む健康支援室、各学群のワーキング・グループの連携により、問題を抱える学生の早期発見に努め、早期の対応を行っている。

### 【凡例】

1	成績不振等	学力不足、留年のため前期または後期に履修科目なし、就職浪人、在学期間満了等
2	進路変更等	不本意入学、学修意欲喪失、他大学受験、資格取得、学外団体での活動、就職等
3	心の問題等	グループワーク等で居場所喪失、体調不良、アレルギー疾患を含むメンタル面の疾患等
4	からだの問題等	病気等の内部障がい、けが、妊娠・出産・育児等
5	経済事情等	父母（家庭）の経済状態悪化、休学してアルバイト等
6	海外渡航等	留学、海外インターンシップ、ワーキングホリデー、海外語学研修等

注：退学者数には退学年度に休学していた者を含む。休学者数からは同年度に退学に至った者を除く。

### 【全学】(6 海外渡航等は合計に含まない。)

	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	休学	退学	休学	退学	休学	退学	休学	退学
1 成績不振等	7	0	7	0	8	2	6	1
2 進路変更等	2	12	4	15	8	7	4	6
3 心の問題等	4	0	3	0	5	2	8	2
4 からだの問題等	4	0	1	0	1	0	2	0
5 経済事情等	1	1	2	3	1	1	1	0
6 海外渡航等	(8)		(6)		(11)		(9)	
合計	18	13	17	18	23	12	21	9
休・退学合計	31		35		35		30	

### 【看護学群・学部】(6 海外渡航等は合計に含まない。)

	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	休学	退学	休学	退学	休学	退学	休学	退学
1 成績不振等	3		3		2			1
2 進路変更等		1	1	2	3	1	2	1
3 心の問題等	1				2		2	1
4 からだの問題等	1						1	
5 経済事情等				1				
6 海外渡航等			(1)		(2)			
合計	5	1	4	3	7	1	5	3

【事業構想学群・学部】(6 海外渡航等は合計に含まない。)

	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	休学	退学	休学	退学	休学	退学	休学	退学
1 成績不振等	4	0	3	0	6	2	4	0
2 進路変更等	0	6	3	6	5	6	1	3
3 心の問題等	2	0	1	0	1	1	3	1
4 からだの問題等	1	0	1	0	1	0	1	0
5 経済事情等	1	1	1	2	1	0	1	0
6 海外渡航等	(4)		(4)		(6)		(5)	
合計	8	7	9	8	14	9	10	4

【食産業学群・学部】(6 海外渡航等は合計に含まない。)

	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	休学	退学	休学	退学	休学	退学	休学	退学
1 成績不振等	0	0	1	0	0	0	2	0
2 進路変更等	2	5	0	7	0	0	1	2
3 心の問題等	1	0	2	0	2	1	3	0
4 からだの問題等	2	0	0	0	0	0	0	0
5 経済事情等	0	0	1	0	0	1	0	0
6 海外渡航等	(4)		(1)		(3)	0	(4)	
合計	5	5	4	7	2	2	6	2

## 6 卒業生満足度調査の結果

### (1) 調査概要

大学運営や施設等の改善検討に関する基礎資料とするため、卒業生・修了生を対象に学生生活満足度調査を実施している。平成30年度までの調査は卒業証書・学位記授与式の当日に紙媒体の調査票を回収しており、100%に近い回収率だったが、令和元年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、卒業証書・学位記授与式が中止となったため、ウェブ上のフォームを用いて調査を行ったところ、回収率は10%程度となった。また、令和2年度においては、回収率を上げるため、卒業証書・学位記授与式のおよそ1か月半前からウェブを用いて調査を行ったが、回収率は20%程度にとどまった。

全42問のうち、学びや施設等に関する項目についての集計結果を示す。ここで、満足度は「分からない」と回答した数を除いた回答数に対して「満足・ある程度満足」と回答した割合である（90%以上を緑字、60%未満を赤字で表している）。

なお、令和2年度は初めて学群生が卒業を迎えたため、学類ごとに集計した。

### (2) 学びの満足度と大学への総合的な満足度

全学で、高水準の評価となっている。引き続き授業評価アンケートの結果等も踏まえながら、授業改善を進めていく。

#### 【令和2年度】

調査項目	看護	事業プランニング	地域創生	価値創造デザイン	食資源開発	フードマネジメント	全学
大学に対する満足度	95.5%	94.4%	85.7%	87.5%	87.5%	83.3%	90.5%
所属学類での学習到達度	100.0%	83.3%	78.6%	75.0%	100.0%	83.3%	86.9%
所属学類に対する満足度	95.5%	94.4%	85.7%	87.5%	87.5%	83.3%	90.5%

#### (参考) 令和元年度

調査項目	看護	事業計画	デザイン情報	食産業	全学
大学に対する満足度	93.3%	62.5%	71.4%	87.5%	82.6%
所属学科での学習到達度	93.3%	75.0%	85.7%	93.8%	89.1%
所属学科に対する満足度	86.7%	75.0%	85.7%	93.8%	87.0%

### (3) 事務局等の対応等

看護学群においては全体的に高い評価を得ているが、その他の学群については評価にばらつきが見られる。一部の学類において、「事務局職員の対応」と「キャリア開発室の相談しやすさ」について評価が低いところも見られたため、今後改善していく。

#### 【令和2年度】

調査項目	看護	事業フ ランニング	地域 創生	価値創造 デザイン	食資源 開発	フットメ ネジメント	全学
事務局 待ち時間の満足度	100.0%	81.3%	100.0%	81.3%	75.0%	80.0%	88.8%
事務局 職員の対応	90.9%	68.8%	85.7%	68.8%	50.0%	60.0%	75.3%
保健室 利用の有無	100.0%	61.1%	50.0%	68.8%	75.0%	66.7%	72.6%
(利用有と回答した方)使用しやすさ	65.0%	100.0%	100.0%	100.0%	83.3%	100.0%	86.2%
学生相談室 利用の有無	50.0%	33.3%	35.7%	37.5%	62.5%	33.3%	41.7%
(利用有と回答した方)使用しやすさ	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	80.0%	100.0%	97.0%
キャリア開発室 相談しやすさ	95.5%	66.7%	66.7%	36.4%	75.0%	83.3%	73.2%
サークル活動への大学の対応	71.4%	66.7%	66.7%	60.0%	62.5%	66.7%	65.6%
ボランティア活動への大学の対応	90.9%	87.5%	88.9%	80.0%	83.3%	100.0%	87.0%

(参考) 令和元年度

調査項目	看護	事業計画	デザイン情報	食産業	全学
事務局 待ち時間の満足度	93.3%	75.0%	85.7%	86.7%	86.7%
事務局 職員の対応	93.3%	57.1%	71.4%	66.7%	75.0%
保健室 利用の有無	60.0%	37.5%	71.4%	68.8%	60.9%
(利用有と回答した方) 利用しやすさ	87.5%	100.0%	75.0%	100.0%	92.0%
学生相談室 利用の有無	33.3%	12.5%	28.6%	37.5%	30.4%
(利用有と回答した方) 利用しやすさ	100.0%	100.0%	100.0%	83.3%	92.3%
キャリア開発室 相談しやすさ	92.3%	83.3%	50.0%	69.2%	77.8%
サークル活動への大学の対応	100.0%	85.7%	85.7%	50.0%	75.8%
ボランティア活動への大学の対応	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

### (4) 施設環境・教室の環境等

教室環境については、両キャンパスともに明るさに対する満足度が高い一方、温度環境に対する満足度が低い。特に、学内が寒いといった声が多く、そのために授業に集中できない、学内で自習したいと思えないといった意見があった。教室環境のゆとりは満足度が低い傾向にあるが、これは、教室定員ぎりぎりまで学生を収容せざるを得ない授業科目が多いためと考えられる。

図書館環境については、利用しやすさや明るさ、音環境への満足度は高いものの、看護学群以外の学群において、専門図書数に対する満足度にばらつきが見られる。

学生ラウンジや、駐車場・駐輪場の収容台数については、両キャンパスで比較的満足度が高めである。

食堂のゆとりについては、大和キャンパスにおいて満足度が低い一方、太白キャンパスにおいては、遠隔授業に伴う利用者の減少が影響したためか満足度が上昇した。

【令和2年度】

調査項目	看護	事業フ ランニング	地域 創生	価値創造 デザイン	食資源 開発	フットマネ ジメント	全学
教室の明るさ	100.0%	93.8%	100.0%	81.3%	100.0%	83.3%	93.8%
教室の音環境	100.0%	93.8%	100.0%	56.3%	100.0%	83.3%	89.0%
教室の温度	50.0%	66.7%	71.4%	37.5%	62.5%	40.0%	55.4%
教室環境のゆとり	63.6%	75.0%	71.4%	75.0%	75.0%	66.7%	70.7%
図書館の専門図書の数	100.0%	71.4%	100.0%	84.6%	87.5%	60.0%	87.5%
図書館の利用しやすさ	95.2%	100.0%	100.0%	80.0%	87.5%	60.0%	90.0%
図書館の明るさ	100.0%	86.7%	92.3%	100.0%	100.0%	83.3%	94.9%
図書館の音	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	83.4%	98.7%
コンピュータ設備の設備数	94.4%	100.0%	84.6%	81.3%	75.0%	66.7%	85.9%
コンピュータ設備の利用しやすさ	77.8%	90.9%	76.9%	53.3%	87.5%	66.7%	74.6%
学生ラウンジの明るさ	81.3%	93.3%	92.3%	86.7%	100.0%	66.7%	87.3%
学生ラウンジの利用しやすさ	81.8%	93.3%	92.3%	86.7%	100.0%	66.7%	87.3%
学生ラウンジのゆとり	77.3%	92.9%	100.0%	66.7%	50.0%	66.7%	78.2%
食堂のゆとり	47.1%	25.0%	64.3%	33.3%	75.0%	66.7%	47.4%
駐車場・駐輪場の収容台数	100.0%	66.7%	90.9%	83.3%	85.7%	100.0%	85.9%

(参考) 令和元年度

調査項目	看護	事業計画	デザイン情報	食産業	全学
教室の明るさ	93.3%	100.0%	100.0%	93.8%	95.7%
教室の音環境	80.0%	75.0%	85.7%	64.3%	75.0%
教室の温度	40.0%	50.0%	28.6%	50.0%	43.5%
教室環境のゆとり	57.1%	85.7%	57.1%	85.7%	71.4%
図書館の専門図書の数	86.7%	83.3%	85.7%	93.8%	88.6%
図書館の利用しやすさ	86.7%	100.0%	71.4%	100.0%	91.1%
図書館の明るさ	71.4%	87.5%	100.0%	93.8%	86.7%
図書館内の音	86.7%	100.0%	100.0%	92.3%	93.0%
コンピュータ設備の設備数	66.7%	100.0%	71.4%	71.4%	75.0%
コンピュータ設備の利用しやすさ	86.7%	75.0%	14.3%	80.0%	71.1%
学生ラウンジの明るさ	92.3%	71.4%	100.0%	92.3%	89.7%
学生ラウンジの利用しやすさ	92.3%	71.4%	100.0%	100.0%	92.5%
学生ラウンジのゆとり	76.9%	85.7%	100.0%	83.3%	84.2%
食堂のゆとり	58.3%	37.5%	28.6%	40.0%	42.9%
駐車場・駐輪場の収容台数	50.0%	83.3%	80.0%	100.0%	76.7%

## 7 進学及び就職の状況

### (1) 進学状況

令和2年度卒業者の大学院進学者は18名で、うち12名が本学大学院への進学であった。例年10～20名程度が大学院へ進学し、そのうち約半数は他大学へ進学している。

#### ○卒業生の進学者数（過去4年間）

	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	大学院	その他	大学院	その他	大学院	その他	大学院	その他
看護学群（部）	1(0)	3	1(0)	0	1(1)	6	0(0)	8
事業構想学群（部）	7(3)	1	5(1)	0	6(5)	0	6(4)	0
事業計画学科	2(1)	0	0(0)	0	2(1)	0	-	-
デザイン情報学科	5(2)	1	5(1)	0	4(4)	0	-	-
事業プランニング学類	-	-	-	-	-	-	1(1)	0
地域創生学類	-	-	-	-	-	-	1(1)	0
価値創造デザイン学類	-	-	-	-	-	-	4(2)	0
食産業学群（部）	8(3)	1	5(4)	0	11(8)	0	12(8)	1
ファームビジネス学科	3(2)	1	4(3)	0	6(5)	0	-	-
フードビジネス学科	3(1)	0	1(1)	0	1(1)	0	-	-
環境システム学科	2(0)	0	0(0)	0	4(2)	0	-	-
食資源開発学類	-	-	-	-	-	-	7(7)	1
フードマネジメント学類	-	-	-	-	-	-	5(1)	0
全学計	16(6)	5	11(5)	0	18(14)	6	18(12)	9

※1 大学院進学者のうち、本学大学院進学者数をカッコ内に表示

※2 看護学群（部）で「その他」へ進学の者は、大学専攻科及び専修学校の助産師課程に進学

※3 平成29年度看護学部の大学院進学者は、他大学大学院の助産師課程へ進学



## (2) 就職状況

### ① 就職率の推移

全学での就職率は98.0%（令和3年5月1日現在）であり，厚生労働省と文部科学省が共同でとりまとめた全国調査結果96.0%（文部科学省令和3年5月18日発表）より高い就職率を維持している。

### ○卒業生の就職率（過去4年間）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
看護学群（部）	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
事業構想学群（部）	100.0%	100.0%	99.4%	95.9%
事業計画学科	100.0%	100.0%	100.0%	—
デザイン情報学科	100.0%	100.0%	98.8%	—
事業プランニング学類	—	—	—	100.0%
地域創生学類	—	—	—	100.0%
価値創造デザイン学類	—	—	—	89.6%
食産業学群（部）	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
ファームビジネス学科	100.0%	100.0%	100.0%	—
フードシステム学科	100.0%	100.0%	100.0%	—
環境システム学科	100.0%	100.0%	100.0%	—
食資源開発学類				100.0%
フードマネジメント学類				100.0%
全学計	100.0%	100.0%	99.7%	98.0%
全国（参考）	98.0%	97.6%	98.0%	96.0%

※就職率は，就職希望者に占める就職者の割合

## ② 学部別・出身地別の就職先

令和2年度卒業者の採用企業・機関等の本社所在地による県内就職率は、看護学群（部）59.8%、事業構想学群（部）44.2%、食産業学群（部）27.2%、全学43.3%であり、例年並みとなっている。

なお、採用時の勤務地による県内就職率は、看護学群（部）59.8%、事業構想学群（部）51.6%、食産業学群（部）27.2%、全学47.0%となっている。

### ○卒業生の県内就職率（過去4年間）

	出身	就職先	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
看護学群（部）	県内出身者	県内	50.0%	47.8%	46.1%	38.1%
		県外	9.3%	13.3%	11.0%	20.6%
	県外出身者	県内	15.1%	16.7%	24.2%	21.7%
		県外	25.6%	22.2%	18.7%	19.6%
事業構想学群（部）	県内出身者	県内	35.1%	30.9%	26.5%	35.1%
		県外	30.8%	36.1%	39.8%	41.5%
	県外出身者	県内	10.8%	9.8%	7.2%	9.0%
		県外	23.2%	23.2%	26.5%	14.4%
食産業学群（部）	県内出身者	県内	13.1%	29.0%	11.9%	17.5%
		県外	25.4%	22.6%	34.7%	35.9%
	県外出身者	県内	6.6%	11.3%	7.6%	9.7%
		県外	54.9%	37.1%	45.8%	36.9%
全学	県内出身者	県内	31.6%	35.9%	26.7%	31.1%
		県外	24.4%	24.0%	31.5%	35.0%
	県外出身者	県内	10.4%	12.6%	11.3%	12.3%
		県外	33.6%	27.5%	30.5%	21.6%

※就職先地域は本社所在地により県内・県外に分類

## ③ 公務員試験合格者数（学群（部）のみ）（過去4年間）

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
看護学群（部）	保健師	9	8	12	12
	養護教諭	1	1	3	3
事業構想学群（部）		11	15	8	12
食産業学群（部）		13	15	15	6

※公務員試験合格したもの、民間企業への進路を選択した者を含む。

## ④ 研究科の就職率（過去4年間）

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
前期課程	看護学研究科	対象者なし	100.0%	対象者なし	対象者なし
	事業構想学研究科	100.0%	71.4%	100.0%	0.0%
	食産業学研究科	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
後期課程	看護学研究科	対象者なし	対象者なし	対象者なし	対象者なし
	事業構想学研究科	対象者なし	対象者なし	対象者なし	100.0%
	食産業学研究科	対象者なし	対象者なし	対象者なし	対象者なし

※就職率は、就職希望者に占める就職者の割合

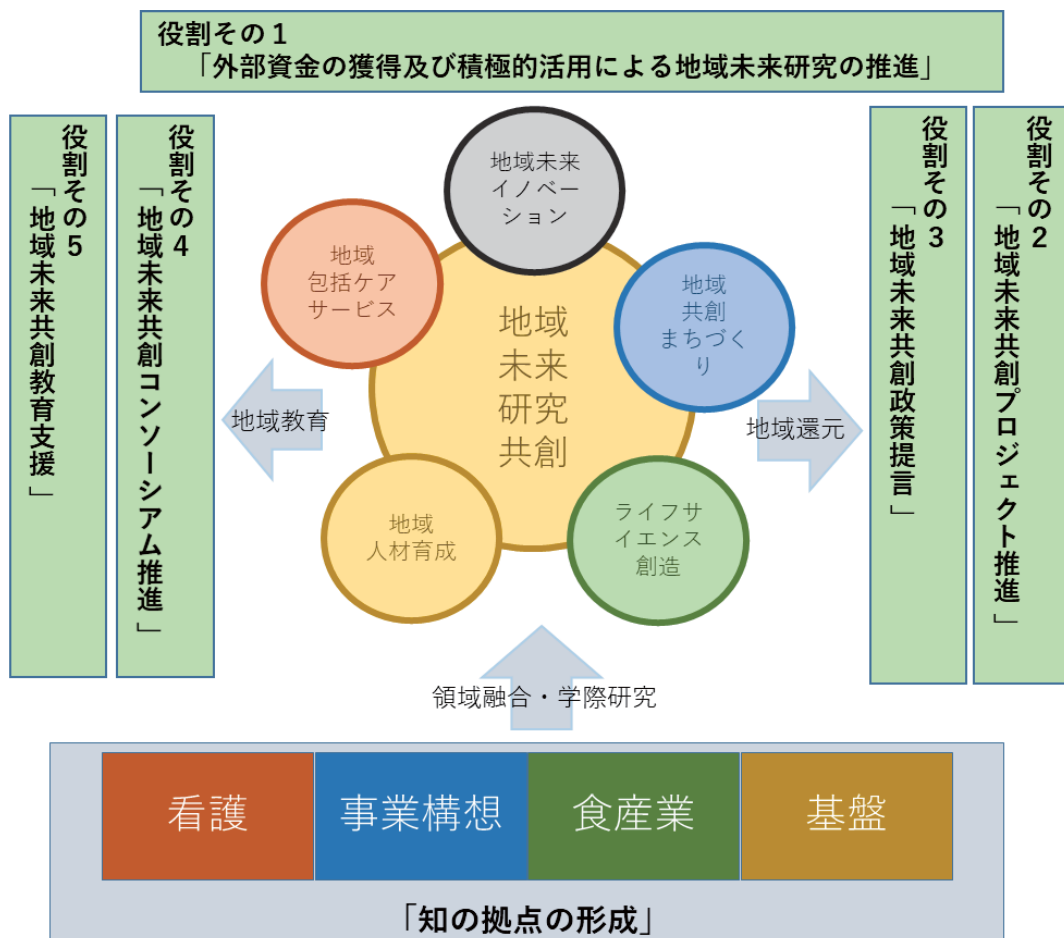
### Ⅲ 研究の状況について

#### 1 研究推進・地域未来共創センター

令和3年度からの第3期中期計画では、研究及び地域連携分野において、外部資金の獲得、研究成果の戦略的な知財化と地域への還元、企業や自治体等との更なる連携強化を重点に掲げている。一方、真に豊かで持続可能な地域社会を実現するためには、連携にとどまらず、地域の未来を共創していくことが求められている。

このような取組を実践していくため、研究担当部門の予算・人員を地域連携センターに移管し、研究及び地域連携の分野を統合させた新たな研究推進・地域連携組織として「研究推進・地域未来共創センター」を設置した。

研究推進・地域未来共創センターは、東北・宮城の変貌する社会経済状況を踏まえ、長寿社会や地域看護への対応、新たな産業を創造するイノベーションやデザインの戦略提案、地球環境時代に対応した生命科学やバイオ技術などの先端科学技術と食産業の融合によるライスサイエンスの進展、リベラルアーツから発する人間社会のあり方に関する提言など、各領域における創造的な研究とともに、領域を超えた学際的な研究課題に挑戦し、それらの研究成果の地域への還元、更には世界に向けた情報発信を進めていく。



## 2 外部研究資金の獲得状況

外部研究資金（受託研究，共同研究，補助金事業，奨学寄附金，科学研究費補助金，その他研究助成金）は，平成21年度の法人化直後には目標に達しなかったが，震災復興関連の研究が増えたことから，平成23年度から平成26年度までは目標を上回る額を獲得した。

平成25年度をピークに獲得額は減少し，第2期中期計画始期の平成27年度から目標額を下回る状況が続いていたが，令和元年度は大型の補助金事業や科学研究費補助金の獲得により，第2期中期計画期間では初めて2億円を超える外部資金を獲得した。第2期中期計画の最終年度となる令和2年度は，新型コロナウイルス感染症の影響もあり，前年度から獲得額は減少し，目標についても未達となった。

令和3年度からの第3期中期計画では，最終年度（令和8年度）に2億3,600万円を獲得することを目標として掲げている。

### 【第1期中期計画期間】

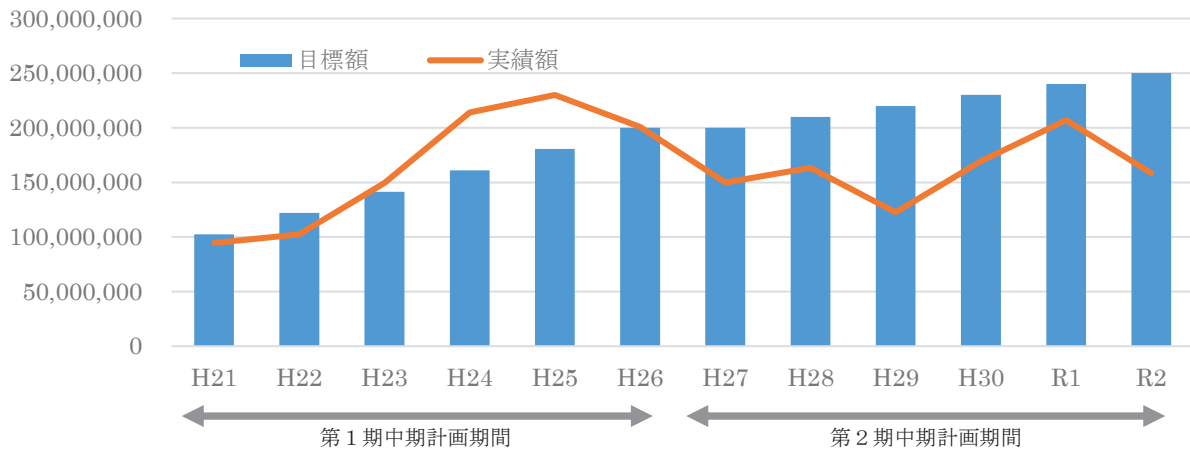
	H21		H22		H23		H24		H25		H26	
	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)
<b>目標額</b>	-	<b>102,500,000</b>	-	<b>122,000,000</b>	-	<b>141,500,000</b>	-	<b>161,000,000</b>	-	<b>180,500,000</b>	-	<b>200,000,000</b>
<b>実績額</b>	<b>82</b>	<b>94,475,966</b>	<b>123</b>	<b>102,290,842</b>	<b>105</b>	<b>149,660,200</b>	<b>120</b>	<b>214,125,001</b>	<b>134</b>	<b>230,036,467</b>	<b>154</b>	<b>200,886,203</b>
受託研究	26	28,218,466	19	22,747,917	17	30,340,822	11	20,888,461	17	47,893,039	16	44,229,300
共同研究	7	1,730,000	4	2,612,126	4	1,300,000	11	11,800,000	13	18,675,000	13	17,071,300
その他受託事業	4	3,538,500	3	671,400	1	195,000	0	0	0	0	0	0
補助金事業	2	5,969,000	2	16,927,000	4	20,870,092	4	42,805,000	2	28,946,000	2	27,938,955
奨学寄附金	10	7,415,000	41	8,796,399	17	26,440,786	20	33,341,028	22	38,741,728	22	17,523,369
科学研究費補助金	31	47,105,000	47	46,326,000	57	67,203,500	71	102,850,512	78	95,080,700	86	89,165,700
その他研究助成金	2	500,000	7	4,210,000	5	3,310,000	3	2,440,000	2	700,000	15	4,957,579
達成率	-	92.2%	-	83.8%	-	105.8%	-	133.0%	-	127.4%	-	100.4%

### 【第2期中期計画期間】

	H27		H28		H29		H30		R1		R2	
	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)
<b>目標額</b>	-	<b>200,000,000</b>	-	<b>210,000,000</b>	-	<b>220,000,000</b>	-	<b>230,000,000</b>	-	<b>240,000,000</b>	-	<b>250,000,000</b>
<b>実績額・合計</b>	<b>132</b>	<b>149,885,467</b>	<b>127</b>	<b>163,249,999</b>	<b>120</b>	<b>122,716,145</b>	<b>117</b>	<b>169,421,005</b>	<b>145</b>	<b>207,067,791</b>	<b>141</b>	<b>158,440,493</b>
受託研究	17	17,742,900	16	34,068,994	14	34,470,988	18	73,742,140	21	65,238,000	20	59,256,600
共同研究	12	17,985,920	7	4,800,000	15	6,040,800	12	12,038,000	17	12,426,500	18	12,707,298
その他受託事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補助金事業	2	21,546,000	2	20,978,000	2	1,900,000	2	2,290,000	3	21,954,000	4	16,386,000
奨学寄附金	20	15,872,000	16	18,872,000	16	17,785,000	12	12,465,000	15	15,785,000	13	12,222,500
科学研究費補助金	76	76,050,647	82	83,141,005	72	62,309,357	72	68,685,865	89	91,664,291	86	57,868,095
その他研究助成金	5	688,000	4	1,390,000	1	210,000	1	200,000	0	0	0	0
達成率	-	74.9%	-	77.7%	-	55.8%	-	73.7%	-	86.3%	-	63.4%

### 【第3期中期計画期間】

	R3		R4		R5		R6		R7		R8	
	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)
<b>目標額</b>	-	<b>179,350,000</b>	-	<b>190,400,000</b>	-	<b>199,750,000</b>	-	<b>210,630,000</b>	-	<b>222,700,000</b>	-	<b>236,000,000</b>



### 3 特別研究費等（学内研究費）の実施状況

#### (1) 配分状況

教員の申請に基づき、研究計画を審査の上、特別研究費・海外研究費等を配分している。

令和2年度は、研究の方針に基づく審査による配分を行い、なかでも「特認研究（学長裁量経費）」については、大学を代表する研究の掘り起こしを目的に、7件の研究課題を採択し、研究費13,900千円を配分した。採択された研究課題の題目は次のとおり。

##### 【特認研究】

- ・宮城大学におけるデータサイエンス教育プログラムの設計開発
- ・宮城大学による地域連携型実践教育の体系化とモデルフィールドの整備
- ・非営利セクターのマネジメントとアントレプレナーシップ—災害復興を超えて—
- ・DNAマーカーによる宮城型超多収イネ品種選抜技術の開発
- ・閉鎖循環型混合養殖技術開発と地域産業創生
- ・人文科学と情報科学の融合による「文化」の継承—日本占領期インドネシアを中心とした希少史資料のデジタル化
- ・URAを背景とした研究支援人材が地方の産官学連携を担うための仕組みづくり研究

【年度別特別研究費等配分状況】

		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
特別研究費	指定研究		13件	19件	20件	18件	27件	39件	49件	40件	35件
			8,050千円	11,600千円	12,510千円	12,371千円	16,260千円	24,636千円	26,359千円	17,180千円	22,918千円
	震災復興(発展)特別研究	15件	16件	17件	12件	5件	9件	9件	6件	10件	4件
		10,200千円	10,950千円	10,300千円	6,430千円	4,127千円	6,232千円	5,796千円	4,156千円	4,800千円	2,761千円
	産学連携・地域貢献促進研究	3件	0件	0件	0件	0件	4件	4件	3件	4件	6件
	6,000千円	0千円	0千円	0千円	0千円	2,870千円	3,395千円	2,100千円	1,630千円	3,600千円	
	特認研究(学長裁量経費)						4件	7件	6件	6件	7件
							22,486千円	19,790千円	13,840千円	14,000千円	13,900千円
寄附金研究費 (IPPO IPPO NIPPON震災復興特別枠)								1件	5件	4件	
								1,000千円	7,540千円	6,500千円	
国際研究費		0件	0件	3件	0件	0件	3件	2件	2件	2件	1件
		0千円	0千円	1,600千円	0千円	0千円	1,935千円	1,883千円	1,360千円	950千円	574千円
合計		18件	29件	39件	32件	23件	47件	62件	71件	66件	53件
		16,200千円	19,000千円	23,500千円	18,940千円	16,498千円	49,783千円	56,500千円	55,355千円	45,060千円	43,753千円

## (2) 研究交流フォーラム

本学教員が所属の枠を超え、互いに研究内容について知見を広げ、研究の活性化を推進することを目的に研究交流フォーラムを平成 26 年度から開催している。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、遠隔会議システムを利用してフォーラムを開催し、口頭発表を行ったほか、前年度に採択された特別研究費，寄附金研究費，国際研究費による研究について誌面発表を行い，学内での共有化を促進した。

年度	口頭発表	ポスター発表	誌面発表	発表数計
H26	8 件	—	—	8 件
H27	3 件	10 件	—	13 件
H28	1 件	21 件	—	21 件
H29	3 件	30 件	—	33 件
H30	2 件	30 件	37 件	69 件
R1	3 件	35 件	36 件	74 件
R2	4 件	—	47 件	51 件

## (3) 宮城大学研究フォーラム

例年，12 月に「宮城大学研究フォーラム&第九コンサート」を開催し，特別推進研究の成果を発表し，本学の研究成果を広くアピールしているが，令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

## 4 研究倫理研修会

国の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」の制定，及び「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」の改訂に伴い，平成 27 年 3 月に学内の研究倫理規程を改正し，平成 27 年度から毎年度，研究倫理研修会を開催している。

令和 2 年度は，新型コロナウイルス感染症対策のため集合研修を中止し，全教員と研究事務及び研究費の執行に関わる職員を対象に，研究活動におけるコンプライアンス及び研究活動における不正行為について，実例を交えて講師が説明するビデオ研修を実施し，対象者全員が受講した。受講後アンケートの結果は，理解度，満足度ともに前年度より高くなっており，公正な研究活動を行うためのスキル向上に有益な研修となった。

## 5 宮城大学研究ジャーナル

本学の研究成果を広く世界に発信する新たな媒体として宮城大学研究ジャーナル1巻1号（創刊号）を令和3年3月に発刊した。本ジャーナルには、25件のエントリーから厳正な査読を経て採択された全19編の論文（原著論文6編，総説論文3編，報告8編，資料2編）が掲載されている。

I S S Nを取得して国立国会図書館にも収蔵され，また，発行形態として学術機関リポジトリを活用した電子発行とすることで，C i N i i等の学術データベースとも自動的に連携される等，高い訴求性が期待でき，学群間・学内外を横断する共創のプラットフォームとして機能し得るものとなっている。さらに，オーサーシップにも配慮し，C O I（利益相反），研究助成等についても明記するなど広く世界に公開する際に求められる倫理基準等も満たすものとなった。

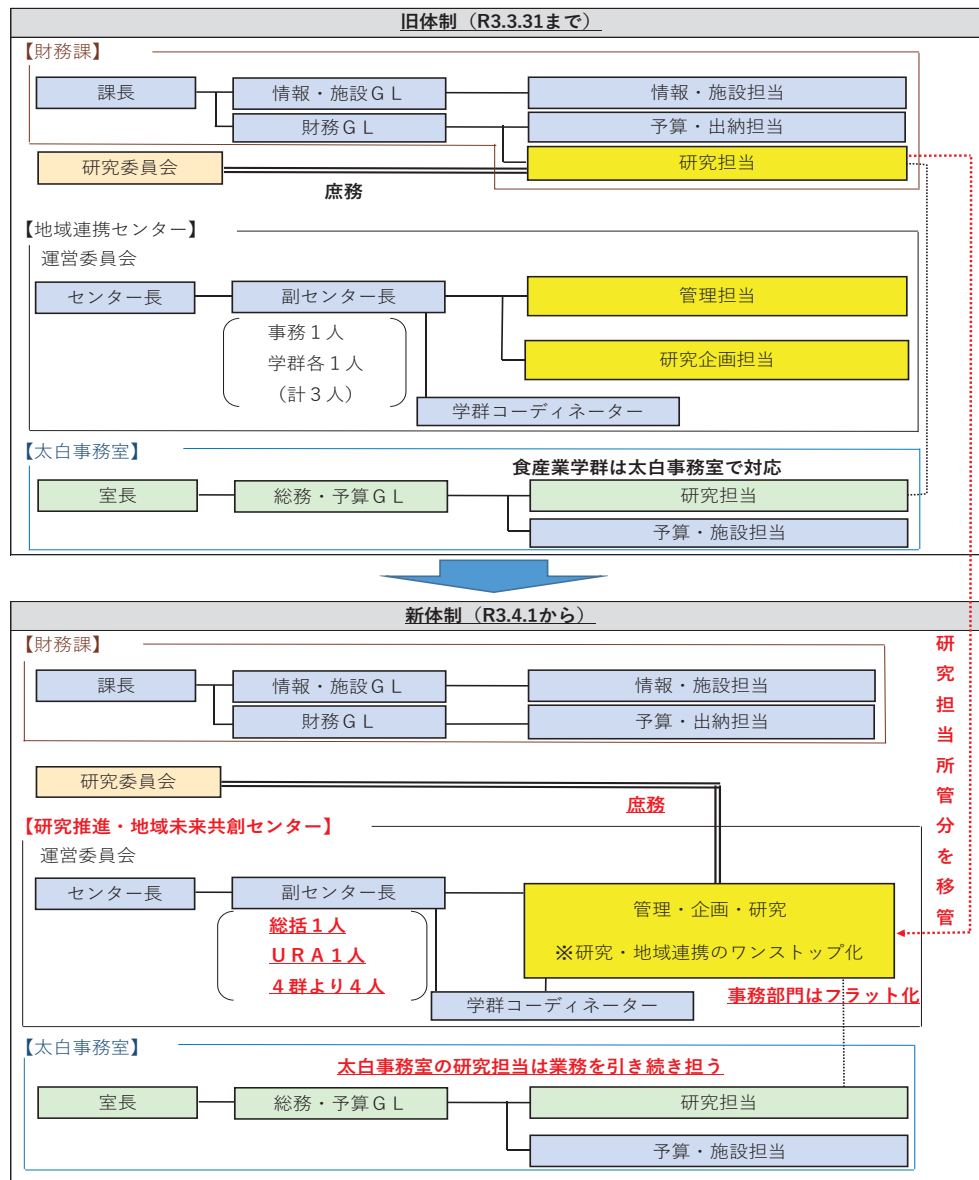
## IV 地域貢献の状況について

### 1 地域連携センターの改組

令和2年度までは、地域連携センターが、自治体・企業との連携や受託事業、公開講座の開催などを担う一方、研究担当部門が、研究に関する外部資金の獲得・管理や教員研究費の配分、知財化支援などを担っていたところであるが、研究成果の戦略的な知財化と地域への還元、自治体・企業との更なる連携を推進するためには、研究と地域連携を一元化するとともに、連携にとどまらず、地域の未来を共創していく必要がある。

このような取組を実践していくため、令和3年4月、研究担当部門の予算・人員を地域連携センターに移管し、同センターを研究推進と地域連携（共創）を創出する新たな組織「研究推進・地域未来共創センター」に改組した（下図参照）。

なお、研究推進・地域未来共創センターの概要については、34ページを参照。





## 2 県民向け公開講座等について

### (1) 本学主催公開講座

本学の教育・研究成果を広く県民に還元するために、公開講座やシンポジウムを開催している。

令和2年度は、地域連携センター（現研究推進・地域未来共創センター，以下同じ）が主体となって企画した公開講座「コロナ禍で生きる宮城大学の知」の動画5本を製作し配信したほか、各学群等においてそれぞれ企画し、公開講座・シンポジウムを計25回開催、のべ2,089人が受講した。

以下、講座の種類別にその内訳と内容を記す。

#### ◇宮城大学公開講座

	H30	R1	R2	R2 年度開催テーマ
開催回数※	12	11	5	◇オンライン公開講座
参加者数※	301	269	1,587	「コロナ禍で生きる宮城大学の知」

※ R2 の開催回数は動画作成本数、参加者数は R2 年度内の動画再生回数

令和元年度までは大和キャンパス，太白キャンパス，サテライトキャンパス等において開催してきたが，令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策において安全性の確保が困難であったため，開催方式をオンライン（YouTube による動画配信）に変更し，新型コロナウイルス感染症に関連する5本の動画を製作，配信した。令和3年度も継続して配信しており，その再生回数は3,989回となっている（令和3年5月28日現在）。



撮影の様子



配信している動画のキャプチャ

◇自治体・企業向けセミナー

	H30	R1	R2	R2 年度開催テーマ
開催回数	—	2	3	◇「地域公共交通計画実践講座」(全2回)
参加者数	—	26	45	◇「クローバーウニの実用化に向けた公開セミナー」

【地域公共交通計画実践講座】

公共交通を担当する自治体職員を対象として、専門的な知識や技術的ノウハウが必要である公共交通計画をテーマに、公共交通の路線再編やバスダイヤについて、参加した自治体職員が自らデータを分析し検討ができる知識を学ぶ機会とした。

【クローバーウニの実用化に向けた公開セミナー】

自治体の水産部門や、水産分野の食品を扱う企業を対象として、本学の研究シーズであるクローバーウニの取組を紹介するとともに、試食会を行い、参加者と意見交換を行った。



地域公共交通計画実践講座の様子



クローバーウニの実用化に向けた  
公開セミナーの様子

◇各学群企画公開講座

	H30	R1	R2	R2 年度開催テーマ
<b>看護学群</b>				
開催回数	2	1	中止	
参加者数	31	37	—	
<b>事業構想学群</b>				
開催回数	1	1	1	◇「卒業研究・制作公開クリティーク」
参加者数	52	30	39	
<b>食産業学群</b>				
開催回数	5	1	2	(詳細は「◇シンポジウム」に記載)
参加者数	63	37	106	
<b>基盤教育群</b>				
開催回数	4	8	8	◇「学ぼう英語のいろいろ」(全8回)
参加者数	130	130	163	

【事業構想学群 | 卒業研究・制作公開クリティーク】

事業構想学群価値創造デザイン学類 4 年生が取り組む卒業研究の成果を社会に発信することを目的とした制作展において、4 人の外部有識者を迎え、クリティーク（評価、検討、判断）を行った。

【基盤教育群 | 学ぼう英語のいろいろ】

10 年前から毎年開催している英語担当教員による一般向けの公開講座である。例年は大和キャンパスにおいて対面で開催していたが、令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症に対する安全性を確保することを優先し、Zoom を用いて開催した。キャンパスにおいて対面で開催していたが、令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症に対する安全性を確保することを優先し、Zoom を用いて開催した。



「学ぼう英語のいろいろ」の様子

◇看護職対象専門講座

	H30	R1	R2	R2 年度開催テーマ
開催回数	20	23	6	◇地区別新人職員研修新任教育担当者育成フォローアップ講座 ◇地区別新人職員研修新任教育担当者育成初回研修（全 2 回）
参加者数	749	761	149	◇看護師のためのエンド・オブ・ライフケア研修 ◇新人訪問看護師育成研修（全 2 回）

看護人材育成・支援事業の一環として、看護職従事者を対象に専門研修を実施している。令和 2 年度は、開催した 6 回のうち 4 回は Zoom を用いてライブ配信により開催した。

◇シンポジウム

	H30	R1	R2	R2 年度開催テーマ
開催回数	2	1	2 (再掲)	◇「ICT やクラウドの導入による農業経営力向上に向けたシンポジウム」(全1回) ◇「みやぎの農業と食品産業の絆シンポジウム」(全1回)
参加者数	86	29	106 (再掲)	

【ICTやクラウドの導入による農業経営力向上に向けたシンポジウム】

農業分野ではスマート農業に注目が集まっている一方、最近では生産者と飲食店との連携や、消費者と直接取引するサービスの利用など、生産方式のみならず経営スタイル全般にICTやクラウドサービスが効果を示している。そこで、生産者や関係者（自治体、企業）がICTを活用した流通や消費に与える価値について意識を高め、経営に新たな手法を取り入れる機会とすることを目的にシンポジウムを開催した。

【みやぎの農業と食品産業の絆シンポジウム】

東日本大震災の翌年から、宮城県、宮城県食品産業協議会、食産業フォーラムとともに「震災や原発事故の風評被害により失われた宮城県の農林水産物及びその加工品の市場を取り戻すために、農業と食産業の連携を強めよう」という趣旨によりシンポジウムを開催している。令和2年度は、「最高の食材×最高の料理 -宮城の食材を世界に誇れる逸品に-」をテーマに、宮城の食材の課題や可能性を見つめ直し、「食材王国みやぎ」を盛り上げるためにできることを議論した。開催は、仙台国際センターでの対面開催と同時に、Zoomを用いてライブ配信したことにより、東北各地からの参加があった。



絆シンポジウムの様子

(2) 学都仙台コンソーシアム主催公開講座

「学都仙台コンソーシアム」は、「知が連携する学都仙台」「知の創造都市仙台」を目指し、県内の大学・短期大学等（以下「参加校」という。）により構成される組織であり、本講座は、同コンソーシアムが、仙台市中心部のサテライトキャンパス（仙台市市民活動サポートセンター）において、それぞれの大学の特色を生かして開催しているものである。

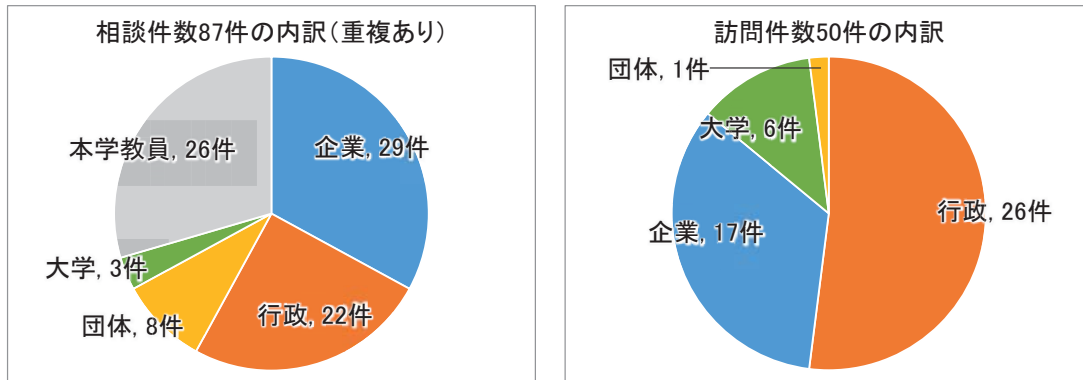
令和2年度も本学から3人の教員が出講する予定であったが、事務局（宮城教育大学）と参加校により、コロナ禍における開催の可否が審議され、中止が決定した。

	H30	R1	R2	R2 年度開催テーマ
開催回数	8	4	中止	—
参加者数	183	63	—	

### 3 自治体や企業等との連携について

#### (1) 訪問及び相談対応

企業や自治体等への訪問や相談を通して明らかになったニーズや課題について、地域連携センターのコーディネーターが教員とのマッチングを行い、受託事業や受託・共同研究等に結びつけている。令和2年度は、87件の相談に対応し、50件の訪問を行った。



#### (2) 関係機関との連携協定

自治体や、大学、経済団体、金融機関等と連携協力に関する協定を締結し、お互いの特色を生かした様々な事業に取り組むなど、大学の教育・研究の成果を地域に還元している。

令和2年度末現在の市町村との連携協定数は14、公的機関等との連携協定数は14となっている。

H30	R1	R2
14	14	<p>■市町村との連携協定数</p> <p>①仙台市（泉区） ②大崎市 ③気仙沼市 ④白石市 ⑤南三陸町 ⑥加美町 ⑦美里町 ⑧蔵王町 ⑨大和町 ⑩利府町 ⑪角田市 ⑫富谷市 ⑬兵庫県神河町 ⑭福島県下郷町</p>
13	14	<p>■公的機関等との連携協定数</p> <p>①宮城県 ②宮城県教育委員会 ③国営みちのく杜の湖畔公園事務所 ④兵庫県立大学 ⑤兵庫県立淡路景観園芸学校 ⑥(株)ホットランド ⑦宮城蔵王観光(株) ⑧泉パークタウン町内会・自治会連絡協議会 ⑨日本政策金融公庫仙台支店 ⑩仙台商工会議所 ⑪七十七銀行 ⑫東北医科薬科大学 ⑬宮城県食品産業協議会 ⑭宮城県議会</p>
3	2	<p>■企業との連携による産学連携講座</p> <p>平成30年度から新カリキュラムに産学連携講座を配置し、企業からの申出等を受け入れる仕組みづくりと企画・調整を行った。</p> <p>◇(株)日立ソリューションズ東日本「ICTがもたらす社会イノベーション」 ◇協力企業8社「君の未来創造論」</p>

#### 4 市町村等からの調査・研究の受託

企業や自治体等からの相談を基にニーズの掘り起こしを行い、事業・研究等 14 件を受託した。

	H30	R1	R2
地域連携センターの調査研究等の受託数	11	13	14
			◇受託事業 ・大崎市教育委員会 「大崎市市民ギャラリー緒絶の館 展示会 企画・実施業務」 ・仙台市消防局 「学生と連携した火災予防啓発事業」 ・農林水産業みらい基金 「先端技術を用いたサステイナブルな自発経営型漁業モデルの構築」 ・KC みやぎ産学共同研究会 4 件 ほか ◇受託研究等 ・JST COI 若手連携研究ファンド ・JST A-STEP (トライアウト) ・農林水産省 労働力不足の解消に向けたスマート農業実証 ・(一財)新技術振興渡辺記念会 奨学寄付 ほか

